

Announcement

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: The Society for the Study of Phytogeography and Taxonomy, メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00055620

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



○ 清水建美 (著)・梅林正芳 (図)・日本草本植物根系図説 A4 変型判, 264 頁, 1995 年 2 月 28 日, 平凡社, 15,000 円。

植物体を構成する器官のうち、根系 (地下茎を含む) についての情報は極めて少なく、分類の診断形質として取り上げられている場合も少ない。しかしながら、草本植物、中でも多年生の種のように養分貯蔵の機能をもつ地下器官は、その生活にとって極めて重要な役割を担う部分である。したがって、地下部のひろがりや正確に把握することは意義深く、必要不可欠であり、分類学・生態学・形態学・生理学などの分野に豊富な情報を提供する。その意義を感じながらも、自ら山野で固い地面、岩盤の隙間、湿地などに生える植物の根系を掘り起こして観察する勇気はなく、多くの場合見過ごしてしまうのが普通である。根系に関する情報が少ない理由の一つには、時間と労力を使って土壤中の根系全体を掘り起こして丹念に観察し、標本に保存するという煩雑さにある。

本書は、その煩雑で困難な作業に挑戦して細心の注意をはらって、212 種 1 変種の地下部の根系を掘り起こし、気の遠くなるような繊細にして、詳細に図版を完成させ、詳しい解説を加えて一冊にまとめている。後半には地下器官の形態に基づく種の検索表を示している。根系の一部を抽出するような図の描き方ではなく、株全体の根系に焦点をおき、その全容を正確に描写するという労作である。ススキ、コガマ、ミョウガ、ハナミョウガなどの複雑にからみあった根系を図に書き上げるのに、一種あたり一体どのくらいの日数を使ったのか想像もつかない図版も収録されている。ミヤマカタバミとコミヤマカタバミ、オオタチツボスミレとタチツボスミレ、ウツボグサとタテヤマウツボグサなど同属内の種間の比較が見やすいように見開きに掲載されている。栄養繁殖する種の匍枝、越冬葉、越冬芽、前年伸びた根茎など地下部で冬越しする植物の図版が紙面のの上に生きているように描かれており、あらためてそれぞれの種の地上部に比べて地下部の複雑さを知り、重要な働きを教えられる思いである。筆者らは、決して脚光を浴びることのない、あまりにも地味な研究である、と指摘されているが、図版と解説を加えて整理された本書を見ていると、地下部の研究も決して地味ではなく、脚光を浴びる分野に思われてくる。一つ一つの種の根系をじっくりながめて、地下から吸い上げられた水や養分が送られて地上部に達するまでの生きた姿を連想することもできる。草本植物の研究者にとっても、またそれに関心のある方にとっても必読の書であり、座右に置いて様々な立場から利用されることをお薦めしたい。

(石沢進)

お詫び

植物地理・分類研究第 43 卷 (1995 年度) は合併号で発行いたしました。投稿論文が不足したために 6 月に 43 卷 1 号を発行することが出来なかったためです。ここに御迷惑と御心配をおかけしたことを心からお詫び申し上げます。次号からは編集委員一同定期的に発行すべく、努力して参りたいと存じますので、ご了承とご協力をたまわりたく御願ひ申し上げます。

会長・編集委員長
清水建美

原稿募集と入会勧誘のお願い

本誌は欧文または和文論文を中心とした植物分類学、植物地理学、生態学などの植物自然史科学分野の雑誌として広く購読されております。原著論文だけでなく、調査報告、短報、新産地報告なども大歓迎です。会員各位のご投稿を心からお待ちしております。

お近くの方に入会を是非お勧め下さい。自然史関連の学会の中では本学会は、学術雑誌を刊行しているところとしては、一般会員会費 3,000 円と破格に安価です。さらに学生会員では、会費はわずか 1,000 円 です。これを機会に周りの方々、特に学生の方に入会を是非ともお勧め下さい。会員各位のご協力を御願ひ申し上げます。

会 記

1994 年度会計報告 (1994 年 1 月 1 日～1994 年 12 月 31 日)

○植物地理・分類学会

収入 (A)	6,033,457* 円	支出 (B)	2,796,297 円
会費	2,065,485	印刷費	1,823,755
バックナンバー	33,500	送料・通信費	300,651
書籍売上	60,000	編集事務補助費	200,000
別刷代金	175,550	編集会議費	84,201
超過ページ組賃	42,000	事務費	52,831
カラー図版代金	60,000	英文校閲費	23,000
英文校閲料	12,000	雑支出	41,395
利息	1,564*	総会関係	270,464
雑収入	46,610	運営	42,000
総会関係	262,100	茶菓	5,310
県補助	50,000	受賞者旅費	15,000
市補助	30,000	招待講演	10,000
参加費	14,100	懇親会	190,300
懇親会費	168,000	会場費	1,854
前年度繰越金	3,274,648	コピー	6,000
差引 (A-B)	3,237,160* 円 (次年度へ繰り越し)		

*: 1995 年度総会における 1994 年度会計報告では利息収入が 1570 円となっていました。帳簿の記入間違いであることが判明しました。実際は 1564 円です。その差額分の 6 円だけ、総収入と次年度繰越金を訂正させていただきました。なお、42 巻 1 号に掲載した 1993 年度会計報告の次年度繰越金の 3,274,680 円は誤植で、正しくは 3,274,648 円です。深くお詫び申し上げます。

○植物地理・分類学会後援会

収入 (A)	1,406,900 円	支出 (B)	63,813 円
拠金 (17 件)	243,000	払込手数料	460
前年度繰越金	1,163,900	送料・通信費	950
		賞金	50,000
		賞状	12,000
		文具	403
差引 (A-B)	1,343,087 円 (次年度へ繰り越し)		

植物地理・分類学会 1995 年度大会

1995 年度大会は 6 月 3 日 (土) 午後 1 時から福井総合植物園 (福井県丹生郡朝日町) で行われた。大会に先立ち当日の午前中に同植物園内で「植物地理・分類研究」の編集委員会と評議員会が行われた。編集委員会は編集委員長以下 6 名の編集委員の出席のもと 43 巻の編集状況の報告が行われた後、現在抱える編集上の問題点が話し合われた。投稿原稿が非常に少なく、従来 6 月に発行してきた 1 号が到底発行できないため年度末に 2 号と併せて合併号として 43 巻を発行することとなった。引き続き行われた評議員会は里見信生、鳴橋直弘の 2 評議員と清水建美会長ほか幹事が出席して行われた。最初に昨年度の活動と会計報告が各担当者により行われた後、今年度の活動計画、予算原案の説明の後それらについて審議した。

総会は午後 1 時から開かれた。総会では例年どおり議長を選出し、前年度の活動報告、会計報告、会計監査報告がそれぞれ庶務幹事、会計幹事代行 (会計幹事が海外に長期出張のため)、会計監査により行われ、質

疑応答の後、拍手を持って了承された。その後今年度の活動方針と予算案が提案され質疑応答の後それぞれ原案どおり承認された。

午後2時から1995年度「植物地理・分類学会賞」の授賞式が行われ、清水会長から受賞者の石沢進・池上義信氏に賞状と副賞が渡された。引き続き石沢氏による受賞講演が行われた。午後3時から角野康郎氏による招待講演1題と7題の一般講演が行われ、予定どおり大会は無事終了した。本大会には約90名の参加があった。午後6時30分から植物園内のレストランに会場を移し、和やかに懇親会が開かれた。

エクスカージョンは翌6月4日(日曜日)に福井県敦賀市の池の河内、中池見の両湿原を舞台に実施された。本学会の講演会が開催された朝日町立植物園プラントピアに、午前8時30分に集合した。若杉植物園長の案内のもとに自動車に分乗して高速道路を利用して現地に向かう。この日は曇りがちで雨も心配されたが、湿地の見学にふさわしい(?)日和であった。最初は池の河内の湿原に向かう。ここは標高300mの所に形成された面積約4haの湿原で、県の環境保全地域に指定されているところである。湿原内に木道が敷設されて、湿原内を観察できるようになっている。参加者はこの木道に沿って湿原内の植物を観察した。植物の研究者の集まりだけあって、植物を見る目は鋭い。この日は、この地が日本の南限とされるヤナギトラノオが黄色の可憐な花を咲かせ、コウホネも花を咲かせて参加者の目を楽しませてくれた。ヒメザゼンソウは花の時期は過ぎ大きな葉を広げていた。参加者はそれぞれ興味を持った植物にカメラを向けシャッターをきった。

次に向かったのは池の河内から1kmほど離れた中池見の湿原である。ここは海拔50m足らずの低地に形成された面積約25haの湿原である。この湿原の一部はまだ水田として利用されている。

この湿原が注目され始めたのは、この地に大阪ガスのLNG基地を造設することが明らかになったからである。この湿原は、これまで動植物の研究者が調査して、優れた自然環境が保たれていることが明らかにされている。この自然環境は、マスコミも注目しているところである。今、自然保護団体、研究者らによってこの湿原の保護運動が進められている。本学会の総会でも、本学会としても中池見湿原の保護を訴える決議をしてはどうかという動議が出され、幹事会で検討されることになったが、本学会も注目する湿原でもある。

こういう状況もあって中池見湿原のエクスカージョンは、ことさら参加者の興味をかき立てた。この湿原の案内役に「敦賀の緑と水を守る」会の笹木さんにお願いした。最初はまとまって行動していたが次第に湿原のあちこちに散らばり、興味のおもむくままに観察した。この湿原でみんなが目留めたのはデンジソウの生育しているところである。福井県でデンジソウは自生しているのはこの湿原だけである。今はここから移植したデンジソウを所々で見かける。この湿原には、レッドデータブックにも掲載されているデンジソウを初めとして、ミズトラノオ、ミズアオイ、ミズニラ、ミクリ、タヌキモ、ヒツジグサなどの貴重種が多く生育している。また、ここには50種類近くのトンボが確認されているなど、昆虫類の宝庫でもある。多様な生物が生育できる環境がこの湿原にあるといえる。

参加者は、この湿原の将来を心配しながらも、いろいろの植物を観察できたことに満足感を持って散会した。

植物地理・分類学会賞のご案内

1997年度の植物地理・分類学会賞候補者を下記の要領で募集します。この賞は植物地理学、植物分類学の研究、教育、普及活動において顕著な功績のあった方に贈られるものです。会員の皆様にはふるって御応募、あるいは受賞候補者の御推薦を頂きますようお願い申し上げます。また、学会後援会基金の拠金は引き続きお受けしておりますので、よろしくご協力のほどをお願いします。

1997年度植物地理・分類学会賞応募要領

- 1) 名称：植物地理・分類学会賞
The Society's Award for Phytogeography and Taxonomy
- 2) 実施主体：植物地理・分類学会
- 3) 目的：植物地理学と植物分類学の振興と育成。
- 4) 受賞人数：年2人(一応の目安として、毎年1名は地域植物相の解明など長期にわたる功績が著しい方、もう1人は若手の新進研究者で顕著な研究成果を挙げられた方を予定しています)。
- 5) 応募資格：受賞の年度において5年以上にわたって植物地理・分類学会員であり、植物地理学あるいは植物分類学の分野において、学術的または教育的見地から、重要な成果をあげた人。
- 6) 賞の内容：賞状及び副賞(金50,000円)を贈呈。
- 7) 応募方法：自薦及び他薦による候補者の推薦。

- 8) 提出書類：履歴書（研究歴を明瞭に記載したもの）1通、論文リスト1部、主要論文各3部（コピー可）、推薦の場合は推薦理由書、及び業績内容を照合できる人（1人）の住所、氏名、連絡先等を明記した書類。
- 9) 応募期限：1996年6月30日
- 10) 応募先：〒920-11 金沢市角間町 金沢大学理学部植物自然史講座内
植物地理・分類学会（必ず書留便で郵送ください）
- 11) 選考：会長が推薦し、評議会が承認した5名の審査員による委員会が行う。審査委員会は1996年の10月30日迄に受賞者を決定する。
- 12) 発表：会誌「植物地理・分類研究」で選考結果とその理由を公表する。
- 13) 授賞式：1997年度の年次大会で賞を贈呈し、受賞者は受賞講演を行う。
- なお、「植物地理・分類学会賞」基金にご拠金（1口1万円）預ける方はご送金頂ければ幸いです。

郵便振替口座：名義「植物地理・分類学会後援会」 口座番号：00710-6-2769

植物地理・分類学会 会長 清水建美

本件に関するお問い合わせ先：

〒920-11 金沢市角間町

金沢大学理学部植物自然史講座内 植物地理・分類学会事務局
電話 0762-64-5706 FAX 0762-64-5976

学会賞基金拠金状況（1995年1月1日～1995年11月30日）

新たに以下の方々からご協力を得ることが出来ました。深く感謝申し上げます。（敬称略、五十音順）

館 豊吉 石沢 進（以上2名）

新入会員（1995年1月～1995年11月）

- 1月9日 浅見 和弘 〒351 埼玉県朝霞市根岸台5-1-25 サンモリッツ202
- 1月11日 白沢 芳一 〒010 秋田市牛島西4-26-7
- 3月20日 五十嵐 博 〒066 北海道千歳市大和2-4-13
- 3月27日 野嶋 玲児 〒662 兵庫県西宮市岡田山4-1 神戸女学院大学
- 4月7日 中村 弘和 〒233 神奈川県横浜市港南区芹ヶ谷4-8-1
- 4月18日 大平 豊 〒763 香川県丸亀市城東町2-11-18
- 4月20日 池田 正 〒271 千葉県松戸市松戸648 千葉大学園芸学部緑地生態学研究室
- 4月21日 吉田 誠治 〒671-12 姫路市勝原区下太田449-5
- 4月28日 上野 健 〒271 千葉県松戸市松戸648 千葉大学園芸学部緑地生態学研究室
- 4月28日 島野 光司 〒271 千葉県松戸市松戸648 千葉大学園芸学部緑地生態学研究室
- 4月28日 李 承娥 〒271 千葉県松戸市松戸648 千葉大学園芸学部緑地生態学研究室
- 4月28日 Bout. Inocencio, Jr. 〒271 千葉県松戸市松戸648 千葉大学園芸学部
- 5月22日 笹木智恵子 〒914 福井県敦賀市東洋町6-37
- 5月22日 西井 武秀 〒926 七尾市藤橋町未部16-5
- 6月12日 岩田 芳隆 〒019-14 秋田県仙北郡六郷町字古館89-2
- 7月11日 田沢 祐介 〒188 田無市本町7-16-24 浜野コーポ101
- 9月14日 安部 健史 〒920-11 金沢市角間町 金沢大学理学部植物自然史講座
- 9月29日 加藤 範夫 〒465 名古屋市中東区上社4-135
- 9月29日 此松 昌彦 〒558 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学理学部地球学教室人類紀自然学

退会会員 (1995年1月~1995年11月)

- 浜田 善利 〒860 熊本市池田 4-22-1 熊本工業大学 (逝去)
 本多 啓七 〒938 黒部市三日市 3687
 森本 範正 〒632 奈良県天理市乙木町 559-9
 大内 準 〒811-31 福岡県粕屋郡古賀町花見南 2-27-37
 奥山 春季 〒153 目黒区三田 2-7-23-601
 沢 信史 〒631 奈良市富雄北 1-3-7 幸福相互富雄ビル 3F 株式会社やまと生物
 下川 端三 〒837 大牟田市大字歴木 401-5
 田中 肇 〒176 東京都練馬区羽沢 2-28-16

住所・氏名変更及び訂正 (1995年1月~1995年11月)

- 秋山 忍 〒169 東京都新宿区百人町 3-23-1 国立科学博物館植物研究部→〒305 つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館植物研究部
 江口 誠一 〒558 大阪市住吉区杉本 3-3-138 大阪市立大学理学部生物学科植物分類→〒558 大阪市住吉区杉本 3-3-138 大阪市立大学理学部人類紀自然学研究室
 長谷川郁江 〒920 金沢市小立野 1-4-7 レジデンスウエノ 302→〒920-11 金沢市田上本町 7 街区 5 番地
 橋越 清一 〒798-37 愛媛県南宇和郡内海村須の川 937→〒798 愛媛県宇和島市長堀 1-1-43
 池上 宙志 〒271 松戸市小山 269 染井荘 1F→〒920-11 金沢市田上町 6-3 ハイツ TOGASHI (II) 103 号室
 岩槻 邦男 〒112 文京区白山 3-7-1 東京大学理学部附属植物園→〒171 東京都豊島区西池袋 3-34-1 立教大学理学部
 井関 智裕 〒181 三鷹市上連雀 2-8-20-401→〒191 日野市三沢 3-47-3-107
 勝山 輝男 〒227 神奈川県横浜市緑区長津田 1-22-1213→〒259-03 神奈川県足柄下郡湯河原町宮下 273-23
 川端 義一 〒950 新潟市東中野山 6-10-12→〒950 新潟市東中島 4-12-21
 川里 弘孝 〒852 長崎県長崎市三芳町 6-22 県公舎第 5-302 号→〒854-06 長崎県南高来郡木浜町雲仙 381-2
 工藤 洋 〒230 仙台市青葉区片平 2-1-1 東北大学遺伝生態研究センター→P.O. Box 28, Edgewater, MD 21037, U.S.A. Smithsonian Environmental Research Center
 近田 文弘 〒422 静岡市大谷 836 静岡大学理学部→〒305 つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館植物研究部
 久米 修 〒761 高松市伏石町 1245 居石マンション 306→〒761 高松市太田上町 78-11
 丸野 勝敏 〒891-11 鹿児島県日置郡郡山町郡山 97-1→〒891-37 鹿児島県熊本郡南種子町荃永 774-3
 丸山 巖 〒690 松江市東津田町 1810-1→〒699-18 仁多郡横田町大字中村 1011-1
 宮脇 昭 〒240 横浜市保土ヶ谷区常盤台 156 横浜国立大学環境科学研究センター 植生学研究室→〒240-01 神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-39 湘南国際村センター内 財団法人国際生態学センター (TISE)
 邑田 仁 〒321-14 日光市花石町 1842 東大理学部附属植物園日光分園→〒192-03 八王子市南大沢 1-1 東京都立大学牧野標本館
 室井 緯 〒653 神戸市長田区蓮宮通 5-5→〒670 姫路市五軒邸 2-182-107
 中池 敏之 〒169 東京都新宿区百人町 3-23-1 国立科学博物館→〒260 千葉県中央区青葉町 955-2 千葉県立中央博物館
 小崎 昭則 〒213 川崎市高津区子母口 54-27→〒227 神奈川県横浜市青葉区青葉台 2-7-7 丸喜荘 201
 小沢 正幸 〒390 松本市横田 2-12-10 コーポみすず 205→〒357-01 埼玉県入間郡名栗村下名栗 243
 瀬沼 賢一 〒947 小千谷市桜町 1471-2→〒947 小千谷市桜町 1427-1
 島袋 守成 〒904-21 沖縄市美里 2-3-26→〒904-22 沖縄市具志川市兼箇段 228
 竹中 則夫 〒662 西宮市岡田山 4-1 神戸女学院大学児童学科→〒662 西宮市岡田山 4-1 神戸女学院

- 大学人間科学部
 寺田 和雄 〒920-11 金沢市角間町 金沢大学教養部→〒980 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学理学部生物
 等々力政彦 〒399-71 長野県東筑摩郡明科町東川手 464-5→〒565 大阪府吹田市藤白台 4-12-11 浜辺登志様方
 辻 誠一郎 〒558 大阪市住吉区杉本 3-3-138 大阪市立大学理学部生物→〒285 千葉県佐倉市城内町 117 国立歴史民俗博物館
 植村 滋 〒098-29 北海道天塩郡幌延町字間寒別 北海道大学農学部附属天塩地方演習林→〒096 北海道名寄市徳田 250 北海道大学農学部附属雨龍地方演習林
 矢原 徹一 〒153 目黒区駒場 3-8-1 東京大学教養学部生物→〒812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学理学部生物

別刷り価格表

計算基準は 1 ページ 10 円、1 部につき (ページ数にかかわらず) 製本代 30 円となります。11 ページ以上の場合には組み賃が必要となりますので、下記の代金表の基準にさらに 3,000 円 X (総ページ数-10) 分の経費が上乘せされます。なお、印刷工程上の問題により 300 部以上の別刷りをご希望の場合にはあらかじめご連絡下さい。なお、下の表では無料贈呈分の 50 部を含めて表示しています。したがって、例えば、200 部を希望された方には、150 部の表示金額ではなく、下記の表示どおりの請求を送らせていただきます。雑録については無料贈呈はありませんので、実費を頂戴します。

ページ数	100 部	150 部	200 部	250 部	300 部
1	2,000 円	4,000 円	6,000 円	8,000 円	10,000 円
2	2,500 円	5,000 円	7,500 円	10,000 円	12,500 円
3	3,000 円	6,000 円	9,000 円	12,000 円	15,000 円
4	3,500 円	7,000 円	10,500 円	14,000 円	17,500 円
5	4,000 円	8,000 円	12,000 円	16,000 円	20,000 円
6	4,500 円	9,000 円	13,500 円	18,000 円	22,500 円
7	5,000 円	10,000 円	15,000 円	20,000 円	25,000 円
8	5,500 円	11,000 円	16,500 円	22,000 円	27,500 円
9	6,000 円	12,000 円	18,000 円	24,000 円	30,000 円
10	6,500 円	13,000 円	19,500 円	26,000 円	32,500 円

植物地理・分類研究バックナンバーのお知らせ

“植物地理・分類研究”は、その前身である“北陸の植物”が 1952 年に創刊されて以来、会員の皆様のご支援により着実に巻をかさねてまいりました。1996 年度よりバックナンバーの価格を見直し、以前より安く設定いたしました。第 25 巻 (1977) 以降は十分な残部数があります。この機会にぜひお求めいただければ幸いです。購入等のお問い合わせは、会計幹事までお願いいたします。(連絡先は裏表紙に記載してあります)

バックナンバー価格表

Vol. 25 (25-4 は第 100 号記念特別号)	個人会員 2000 円	団体会員 3000 円	会員外 4000 円
Vol. 26~Vol. 28	1500 円	2500 円	3000 円
Vol. 29~Vol. 39	2000 円	3000 円	4000 円
Vol. 40~Vol. 43	3000 円	5000 円	6000 円

投 稿 規 定

1. 論文の投稿者は原則として本会会員であること。
2. 文章は簡潔に書くこと。本論文は図表を含み、刷り上がりで10ページまでのこと。ただし、超過分の組賃（1ページにつき6,000円）を著者で負担する場合は制限しない。
3. 本論文は、著者名と表題、摘要（Abstract, 英文で250語以内）、英語のキーワード（5語以内）、本文、引用文献の順序で構成するものとする。さらに欧文論文の場合は和文の摘要をつけること。論文の脚注に著者の勤務先（勤務されていない場合は住所）とその英文訳を付記すること。
4. 本論文と雑録の題名は欧和両文で付け、著者名も和文の場合にはローマ字綴りを併記すること。
5. 原稿は本原稿とそのコピー2部を送ること。
6. 植物和名は片仮名を用い、単位はメートル法による。
7. 和文原稿の場合、原稿用紙はA4判400字詰めを用いること。日本語ワードプロセッサ使用の場合には、A4判の用紙に、周囲それぞれ3cm程度の余白をとった上で、30字（刷り上がり1行の文字数）×30行を原稿の1ページとして作成のこと。欧文原稿は、A4判用紙にダブルスペースで1行60～65字、25行を原稿の1ページとする。
8. 図および写真はそのまま印刷できるようレイアウトして、堅い台紙にはりつけ、裏面に著者名と図番号、天地、縮小率を明記すること。破損紛失防止のため、台紙の大きさはA4判とすること。写真は原寸大、図は60%縮小程度が望ましい。
9. 図にはスケールを表示し、図中の記号、数字には活字（写植を含む）をはりこむこと。図は刷り上がりで、15cm×19cm以内または7cm×19cm以内（いずれも幅×高さ）であること。図表および写真の説明は原則として欧文とする。
10. カラー図版および折り込みの図表については、実費を著者で負担のこと。
11. 引用文献は下記の例にならって、著者の姓名のABC順により字引式に配列する。
 - a 雑誌の場合：著者名（姓前名後とし、すべての著者名をあげる）、年号、論文表題、雑誌名、巻：ページ、巻が通しページでない場合は巻の次に丸がっことで号数をあげること。
 - b 論文集などの編集著作物の場合：著者名（aに同じ）、年号、論文等の表題、「論文集等の表題」（編著者名）、ページ数、発行所、発行地。
 - c 単行本の場合：著者名（aに同じ）、年号、（翻訳者名、年号）、表題、ページ数、発行所、発行地（bに同じ）。

例：奥富清・星野義延, 1983. 関東・東北地方のミズナラ林の植物社会学的研究. 植物地理・分類研究 31: 34-45.
 鈴木時夫・鈴木和子, 1973. 暖帯（暖温帯）の植物社会. 「植物社会学. 生態学講座4」（佐々木好之編）, pp. 18-26. 共立出版, 東京.
 正宗厳敬, 1956 a. 植物地理学新考. 166 pp. 北隆館, 東京.
 ボイセン-イエンセン, P. 1949. 因果律的植物地理学. 「植物の物質生産」（門司正三・野本宣夫編訳, 1982）, pp. 163-181. 東海大学出版会, 東京.

 ただし欧文の引用文献については欧文投稿規定の例によること。
12. その他、原稿の体裁については最近号をよく参照のこと。
13. 投稿された原稿の採否は2名の審査員の意見をもとに、編集委員会が決定する。登載する順序や体裁は編集委員にお任せのこと。活字の指定は編集委員会がおこなうが、特に希望する箇所があれば鉛筆で記入のこと。なお、欧文論文については外国人の校閲を受けることがあり、その場合の実費は著者の負担とする。
14. 投稿者は必要とする別刷数を原稿に明記すること。本論文にかぎりそのうち50部は無料、それ以上は著者負担のこと。雑録の別刷は実費を著者が負担する場合にかぎって作成する。
15. 送稿や編集に関係した通信は〒920-11 金沢市角間町 金沢大学理学部植物自然史講座, 植物地理・分類研究編集委員会あてのうえ、封筒には「投稿原稿在中」と朱書すること。

投稿規定細目 (改訂版)

投稿規定と下記の細目に充分にご注意下さい。これらの規定にそぐわない投稿原稿は返却する場合があります。また、体裁などについては最新号を充分に参照にした上で原稿を作成して下さい。

1. 図表の原図は最終原稿とともにお送り下さい。原図をお預かりすることは様々なトラブルの原因になります。最初に投稿される時には、原図ではなく、鮮明なコピーで代用をお願いいたします。写真図版については写真原図版を写真にとったものか、または審査が容易に行える鮮明なコピーにして下さい。なお、投稿に際し、図表はそれぞれ個々に A4 判台紙に張り付けて下さい。それ以外の大きさは原則として認めません。A4 に納めることが不可能な植生表のような場合には、A4 に分割したコピーを添えて下さい。

表は印刷所で組むことを原則とします。なお、縦の罫線は可能な限り使用しないようにお願いします。

なお、原図、表は原則として返却いたしません。返却をご希望の場合には予めその旨を申し出られた上で、返送用封筒に宛先を記入し、かつ当て紙を必ず同封願います。A4 判以外の大きさの場合には、返送料をご負担願うことがあります。

2. 再審査用の修正原稿を送っていただく場合、最初の投稿と同様に、必ず正本とコピー 2 部をご送付下さい。また、図表のコピーは、たとえ図表の変更がなくとも正本、コピーともに全てに添付を願います。審査に支障をきたしますので、十分にご注意下さい。

3. 印刷用最終原稿を送られる時には、可能な限りフロッピーを同封して下さい。これは初校における誤植を防ぐと同時に、印刷代金を押さえるためです。もちろん、ワープロ機、パソコンなどを使用出来ない方に強制するものではありません。その場合は楷書にて御願います。

なお、フロッピー送稿にご協力いただける場合、次の点にご留意下さい。まず、テキスト・セーブ (保存) した文章をお願いします。例えば、一太郎の ver.4 や 5 での保存ではなく、テキスト形式で保存するか、または ver.3 形式での保存 (セーブ) にご協力下さい。編集委員会ならびに印刷所ではかなりの機種、ソフトが扱えますがいろいろなトラブルを生じます。特に、ワープロ機の場合、MS-DOS 形式のフロッピーにセーブするよう、ご協力下さい。

活字の指定は投稿規定にありますように原則として編集委員会が行いますので、印刷用原稿のファイルでの文字修飾は不要です (原稿で修飾されることは自由です)。特にご希望がある場合には、原稿にエンピツで書き込んで下さい。

ワープロ機や日本語ワープロソフトで英文原稿を送られる場合、語の途中で改行が入っていることがよくあります。極めて読みにくく、誤植のもとにもなります。ごめんでも、ワードラップ機能のついた機種やソフトで原稿を作成されるか、それができない場合には、語の途中ではなく、単語の終わりのところで改行を手動で入れるように、ご協力下さい。

植物地理・分類学会 会則

- 第1条 本会は、植物地理・分類学会と称する。
- 第2条 本会は、植物地理学および分類学の進歩普及を図り、併せて会員相互の連絡および親睦を図ることを目的とする。
- 第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 植物地理学および分類学に関する研究会、講演会、シンポジウム、観察会等の開催。
 2. 会誌その他の出版物の刊行。
- 会誌「植物地理・分類研究」は年2回（6月および12月）に発行する。
- 第4条 本会の事務局を金沢大学理学部植物自然史講座に置く。
- 第5条 本会の事業年度は1月1日に始まり、12月31日に終わる。
- 第6条 会員は普通会員、学生会員、団体会員および特別会員とする。
1. 普通会員、学生会員および団体会員は植物地理学及び分類学に関心をもち、本会の趣旨に賛同する個人または団体で、それぞれ所定の会費を納める者とする。
 2. 特別会員は本会の趣旨に賛同し、本会の発展に寄与した個人または団体で、総会の承認を受けた者とする。
- 第7条 会員は、会誌の配布を受け、併せて会誌に投稿すること、本会所蔵の図書を閲覧すること、本会主催の諸会合に出席することができる。
- 第8条 普通会員、学生会員および団体会員は別に定められた会費を前納するものとする。特別会員は会費の納入を要しない。
- 第9条 本会の最高決定機関として総会を置く。総会は毎年1回開催する。総会での議決は出席者の過半数の賛成を似て行う。ただし規約の改正には出席者の2/3以上の賛成を要する。
- 第10条 本会に幹事会を置く。幹事会は本会の運営を行う。幹事は会長、庶務幹事、編集委員長各1名、およびその他若干名とし、総会において選出する。幹事の任期は2年とし、重任を妨げない。
- 第11条 本会に編集委員会を置く。編集委員会は編集委員長、主任編集委員および編集委員で構成し、編集委員長がこれを代表する。主任編集委員1名、編集委員は若干名とし、編集委員長が幹事会にはかって委嘱する。委員の任期は2年とし、重任を妨げない。
- 第12条 本会に評議員会を置く。評議員会は会長の諮問に応じ、会務の重要事項を審議する。評議員会は総会において選出された評議員若干名で構成し、任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第13条 本会に会計監査2名を置く。任期は2年とし、総会において選出する。
- 付則 1. この規約は1990年6月2日から施行する。
- 付則 2. 第10条の規定にかかわらず会長は編集委員長を兼ねることができる。
- 付則 3. この規約は1994年6月4日から施行する。

植物地理・分類学会会員名簿
1995年12月現在
氏名 アルファベット順

特別会員

初島 住彦 〒892 鹿児島県鹿児島市吉野町2635-3
香室 昭円 〒914 敦賀市神楽町2-3-9
河合 功 〒921 金沢市三十かり町6-6
松尾 秀邦 〒790 松山市大手町2-1-1 大手町ハイツ505号
大村 敏朗 〒420 静岡市馬場町六
里見 信生 〒921 金沢市久安4-359

一般会員
A

阿部 直樹 日本特肥化学株式会社 開発部
〒381 長野市穂保280-3 TEL 0262-95-3333
〒381 長野市徳間1144 駒沢第二団地A1-22
阿部 聖哉 千葉大学大学院園芸学研究科環境緑地学専攻
〒271 松戸市松戸648
〒228 神奈川県座間市入谷4-2406-27
安部 健史 金沢大学理学部生物学科
〒920-11 金沢市角間町 TEL 0762-64-5976 FAX 0762-64-5976
〒920 金沢市笠舞2-18-10
油野 靖博 〒929-11 河北郡七塚町字白尾リ 27
上石 貞夫 〒955 新潟県三条市南四日町1-4-9
相羽 福松 〒470-23 愛知県知多郡武豊町字青木ヶ丘1-127
安嶋 隆 〒313 常陸太田市真弓町666
赤井 賢成 信州大学農学部森林科学科
〒399-45 長野県上伊那郡南箕輪村8304 TEL 0265-72-5255
赤坂 正一 〒038 青森市沖館小浜167
アキハリニア・モスレム 東京農工大学連合農学研究科植生管理学研究室
〒183 府中市幸町3-5-8 TEL 0423-67-5739
秋山 久美子 〒183 府中市美好町3-10-34
秋山 守 〒252 神奈川県綾瀬市深谷3573
秋山 好則 東京都立武蔵丘高校
〒165 中野区上鷺宮2-14-1 TEL 03-999-9308
〒202 保谷市中町3-8-12
秋山 忍 国立科学博物館植物研究部
〒305 つくば市天久保4-1-1 TEL 0298-53-8972
〒167 杉並区下井草3-20-13
阿久沢栄太郎 〒112 文京区目白台3-19-4
尼川 大録 〒810 福岡市中央区笹丘3-32-8
天野 誠 千葉県立中央博物館
〒280 千葉市青葉町955-2 TEL 043-265-3111
〒241 横浜市旭区笹野台180
安藤 久次 エリザベト音楽大学
〒730 広島市中区幟町4-15 TEL 082-221-0918
〒736 広島市安芸区矢野西一丁目7-5-411

- 安溪 貴子 山口大学教育学部生物
〒753 山口市吉田1677-1 TEL 0839-22-6111 (581)
〒753 山口市仁保下郷3405
- 青木 繁 〒520-16 滋賀県高島郡今津町今津松陽台2-8-6
有馬 忠雄 〒573 枚方市御殿山町14-14
浅井 康宏 〒158 世田谷区中町2-14-3
浅川 一造 〒400 甲府市天神町13-1
浅見 佳世 〒533 大阪市東淀川区東中島4-11-32 ネオライフ新大阪602
浅見 和弘 〒351 埼玉県朝霞市根岸台5-1-25 サンモリッツ202
浅野 一男 〒194 町田市本町田3539 藤の台団地2-13-202
- B
- 馬場 篤 〒969-62 福島県大沼郡会津高田町大字旭寺入195
Bout. Innocencio, Jr. 千葉大学園芸学部緑地生態学研究室
〒271 千葉県松戸市648 TEL 0473-63-1221 (4438) FAX 0473-66-2234
- C
- 千村 速男 〒399-56 長野県木曾郡上松町本町通り2-106
中馬 千鶴 〒516 伊勢市勢田町295-25
- D
- 土永 浩史 和歌山県立田辺商業高等学校
〒646 田辺市神子浜736 TEL 0739-22-2550 FAX 0739-22-2558
〒646 田辺市朝日ヶ丘16-27
土肥 尚 〒611 宇治市木幡平尾29-39
土門 尚三 〒999-83 山形県飽海郡遊佐町大字小松字長田29
- E
- 越前谷 康 〒010 秋田市保戸野中町3-7
江口 誠一 大阪市立大学理学部人類紀自然学研究室
〒558 大阪市住吉区杉本3-3-138 TEL 06-605-2590 FAX 06-605-2522
〒558 大阪市住吉区我孫子4-10-21-311
- 遠藤 康弘 〒197 秋川市引田617-8
遠藤 泰彦 千葉県立中央博物館
〒280 千葉市青葉町955-2 TEL 043-265-3921 FAX 0472-66-2481
〒260 千葉市出洲港1-30-301
- 榎本 敬 岡山大学資源生物科学研究所
〒710 倉敷市中央2丁目20-1 TEL 0864-24-1661 (251) FAX 0864-21-0699
〒710 倉敷市酒津2483
- F
- 藤井 紀行 金沢大学理学部生物学科
〒920-11 金沢市角間町 TEL 0762-64-5976 FAX 0762-64-5976
〒920-11 金沢市田上2-38 ハイムホンダ II 101
- 藤本 義昭 〒654-01 神戸市須磨区妙法寺字岩山1054-3
藤原 一絵 横浜国大環境科学センター
〒240 横浜市保土ヶ谷区常盤台156 TEL 045-332-0975
- 藤原 陸夫 秋田県立秋田東高等学校
〒010 秋田市中通6-6-36 TEL 0188-33-1261
〒010 秋田市高陽幸町2-23
- 福田 達男 東京都薬用植物園
〒187 小平市中島町21-1 TEL 0423-41-0344 FAX 0423-44-0518
〒187 小平市花小金井南町2-17-21 Mコーポ206
- 福原 稔 菊武学園守山女子商業高校
〒463 名古屋市守山区小幡5-8-13 TEL 052-791-8261
〒453 名古屋市守山区森末町3-88
- 福永 吉孝 〒917 福井県小浜市熊野49-11

- 福岡 誠行 頌栄短期大学
〒658 神戸市東灘区御影山手町1丁目
- 福島 司 東京農工大農学部環境保護学科
〒183 府中市幸町3-5-8
- 富銘 由紀夫 沖縄蘭研
〒904-22 具志川市栄野比1212-3
- 船本 常男 昭和薬科大学生物学教室
〒194 町田市東玉川学園3-3165 TEL 0427-21-1511 (2571)
〒227 横浜市緑区あざみ野1-3-3 第二金子ハイツ207
- 船津 金松 〒123 足立区江北3-27-3
- 古池 博 〒921 金沢市新保本町2-14
- 古瀬 義 〒328 栃木市皆川城内町1864
- 布施 隆 〒990 山形市五十鈴3-6-30
- G
- 磯田 洋二 〒336 浦和市常盤町9-5-13
- 後藤 宮子 〒501-32 関市下白金60-2
- 後藤 鉄雄 〒019-05 秋田県平鹿郡十文字町梨木西上70-11
- 後藤 稔治 岐阜県立海津高等学校
〒503-06 岐阜県海津郡海津町高須町 TEL 0584-53-1155
〒503-13 岐阜県養老郡養老町高田176-3
- 後藤 義明 森林総合研究所関西支所
〒612 京都市伏見区桃山町永井久太郎官有地 TEL 075-611-1201
〒612 京都市伏見区深草西浦町7-18-2 フォーブル深草208
- H
- 芳賀 卓 北海道教育大学岩見沢分校生物
〒068 岩見沢市緑が丘2-34-1
- 萩原 靖夫 〒311-41 水戸市河和田1-1535-108
- 萩原 信介 国立科学博物館自然教育園
〒108 東京都港区白金台5-21-5
- 浜島 繁隆 高蔵高等学校
〒456 名古屋市熱田区横田1-1 TEL 052-681-0331
〒458 名古屋市緑区浦里2-168
- 浜谷 稔夫 東京農業大学農学部造園学科
〒156 世田谷区桜丘1-1-1 TEL 03-420-2131 (503) FAX 03-420-0511
〒242 大和市南林間6-22-6
- 原 慶太郎 東京情報大学情報学科
〒265 千葉市若葉区当谷町1200-2 TEL 043-236-1101 (2611)
〒280 千葉市小倉台6-15-5-101
- 原田 幸雄 弘前大学農学部植物病理講座
〒036 弘前市文京町3 TEL 0172-36-2111 (4722) FAX 0172-35-9000
〒036 弘前市西が丘町9-8
- 原子 一男 青森県立青森第三看護学校
〒083 青森市西田沢字浜田368 TEL 0177-88-0571
〒038 青森市羽白字沢田531
- 長谷部 光泰 東大理学部附属植物園
〒112 東京都文京区白山3-7-1 TEL 03-814-0138 FAX 03-814-0139
- 長谷川 康雄 〒943 上越市東本町5-3-44
- 長谷川 幹夫 富山県林試
〒930-13 中新川郡立山町吉峰 TEL 0764-83-1511
- 長谷川 郁江 〒920-11 金沢市田上本町7-5

長谷川 順一 宇都宮中央女子高等学校
 〒320 宇都宮市若草2-2 TEL 0286-22-1766
 〒320 宇都宮市中戸祭町767
 長谷川 義人 化水プロセス株式会社
 〒232 横浜市南区井土ヶ谷中町162-2横浜南ガーデン716号
 〒232 横浜市南区弘明寺町12
 長谷川 栄 北海道大学農学部森林生態学研究室
 〒060 札幌市北区北9西9
 支倉 千賀子 アトリエ コナン
 〒214 神奈川県川崎市多摩区三田1-6-5すみれ荘101
 〒214 神奈川県川崎市多摩区三田1-15-5-305
 橋越 清一 愛媛県立南宇和高校
 〒798-41 愛媛県南宇和郡御荘町平城 TEL0895-72-1241
 〒798-37 愛媛県宇和島市長堀1-1-43
 橋本 竹二郎 〒573 大阪府枚方市南楠葉1丁目43-5-103
 橋本 保 国立科学博物館筑波実験植物園
 〒305 つくば市天久保4 TEL 0298-51-5159
 橋本 光政 兵庫県立人と自然の博物館
 669-13 三田市弥生が丘6 TEL 0795-59-2001 FAX 0795-59-2007
 670 姫路市田寺東4-12-10
 畠山 茂雄 大迫町立大迫中学校
 〒028-32 岩手県稗貫郡大迫町外川目27-22-1 TEL 0198-48-2221
 〒028-34 岩手県柴波郡柴波町片寄字川原67-2
 畑中 康郎 金沢大理学部付属植物園
 〒920-11 金沢市角間町 TEL 0762-64-5874
 〒920-11 金沢市泉が丘1丁目2-50泉が丘コーポ205
 早川 利之 〒486 春日井市宗法町字宗法32
 早川 亮太 〒251 藤沢市辻堂東海岸2-13-40
 林 一彦 大阪学院大学教養部生物
 〒564 吹田市岸部 TEL 06-381-8434 (4851)
 〒543 大阪市天王寺区大道3-6-2
 東本 晃一 〒567 茨木玉瀬町39-25
 平田 浩 〒891-01 鹿児島県下福元町994-3
 広木 詔三 名古屋大学 教養部
 〒464-01 名古屋市千種区不老町
 久藤 広志 呉市立広小学校
 〒737-01 呉市広杭本町3-1 TEL 0823-71-7667
 〒737-01 呉市広文化町7-14
 本多 郁夫 〒921 石川郡野々市町住吉町3-10
 本田 雅人 金沢市立大野町小学校
 〒920-03 金沢市大野町1-15 TEL 0762-67-1466
 〒920-03 金沢市畝田中2-224
 本浄 高治 金沢大学理学部化学教室
 〒920-11 金沢市角間町 TEL 0762-64-5694 FAX 0762-64-1059
 〒921 金沢市平和町3-18-15
 堀 良通 茨城大学理学部生物
 〒310 水戸市文京2-1-1
 堀江 健二 北海道旭川凌雲高等学校
 〒079 旭川市永山町3丁目 TEL 0166-47-6006
 〒079 旭川市永山1条16丁目
 堀井 雄治郎 〒019-18 秋田県仙北郡南外村字梨木田259
 堀野 末男 〒922-04 加賀市作見町カ28

堀内 和美 高知女子大学家政学部生活理学科
〒780 高知市永国寺町5-15 TEL 0888-73-2156(105) FAX 0888-73-8551
〒780 高知市棧橋通5-6-18

星野 卓二 岡山理科大学理学部生物
〒700 岡山市理大町1-1 TEL 0862-52-3161

星野 義延 東京農工大学農学部植生管理学講座
〒183 府中市幸町3-5-8 TEL 0423-64-3311 (521) FAX 0423-34-6909
〒190-12 武蔵村山市学園2-36-1 むさしの住宅6-506

細井 幸兵衛 みどり造園(有)
〒038 青森市新城平岡252-90 TEL 0177-88-1009 FAX 0177-88-3260
〒038 青森市大字新田字扇田167-4

兵頭 正治 〒790 愛媛県松山市宮西2-9-11

I

五十嵐 彰 〒960 福島市入江町15-23

五十嵐 博 有限会社 ムーブ植物設計
〒062 札幌市豊平区月寒東5条10-1-1 TEL 011-852-5420
〒066 北海道千歳市大和2-4-13

井木 張二 〒703 岡山県国富二丁目21-32

池田 豪憲 〒899-02 出水市平和町116 共済住宅206号

池田 健蔵 〒369-02 埼玉県大里郡岡部町今泉11

池田 登志男 〒389-02 長野県北佐久郡御代田町向原4106-201

池田 弘子 ハツフィクコンサルタント(株)
〒980 仙台市若林区清水小路6-1明治生命ビル8F TEL 022-296-8560
〒980 仙台市若林区新寺1-4-5

池田 博 兵庫県立人と自然の博物館
〒669-13 兵庫県三田市弥生が丘6 TEL 0795-59-2011

池田 正 千葉大学園芸学部緑地生態学研究室
〒271 千葉県松戸市648 TEL 0473-63-1221(4438) FAX 0473-66-2234
〒259-01 神奈川県中郡二宮町二宮934-2

池上 義信 〒950 新潟市幸西4-3-19

池上 宙志 金沢大理学部生物学科
〒920-11 金沢市角間町 TEL 0762-64-5976 FAX 0762-64-5976
〒920-11 金沢市田上町夕6-3 ハイッTOGASHI(II) 103号室

池原 直樹 読谷高等学校
〒904-03 沖縄県読谷村伊良皆198 TEL 0989-56-2157

今津 道夫 筑波大学農林学系植物病理
〒305 つくば市天王台 TEL 0298-53-4707
〒300 土浦市並木3-4-7 マイツィーライ737番館103号

今江 正知 熊本大学教養部環境科学教室
〒860 熊本市黒髪2-40-1

今井 善之輔 〒377 群馬県勢多郡北橋村下箱田399

今井 建樹 〒394 岡谷市長地東堀3491

井波 一雄 〒464 名古屋市千種区豊年町15-20

稲村 毅 〒194 東京都町田市高ヶ坂1428-1

猪俣 正雄 〒285 佐倉市本町127-1

井上 幸三 〒020-01 岩手県滝沢村鶉飼字向新田7-186

井上 健 信州大学教養部生物
〒390 松本市旭3-1-1 TEL 0263-35-4600 (7183) FAX 0263-35-5450
〒390-03 松本市浅間温泉272-10

井上 守 青森県西津軽郡稲垣中学校
〒037-01 青森県西津軽郡稲垣村豊川字官川45-1 TEL 0173-46-2022
〒037 五所川原市若葉3-13-6

- 猪上 信義 福岡県林業試験場
〒839-11 久留米市山本町豊田1438-2 TEL 0942-45-7982
〒834-12 福岡県八女郡黒木町大字今1314-1
- 石橋 昇 広島大学学校教育学部
〒734 広島市南区東雲3-1-33 TEL 082-281-3141 (238) FAX 082-284-2406
〒731-42 広島市安芸区阿戸町104-46
- 石塚 和雄 山形市小白川町5-10-34
石井 保美 船橋市前原東1-4-3 コーポ宮島205
石川 順子 福島県立富岡高等学校
〒979-11 福島県双葉郡富岡町
〒979-11 福島県双葉郡富岡町中央1-148 秋田コーポ7
- 石本 昭司 福井県立大野高等学校
〒912 大野市友江9-10
〒912 大野市小矢戸27-32
- 石沢 進 新潟大学理学部生物学科
〒950-21 新潟市五十嵐二の町 TEL 025-262-6172
〒950-21 新潟市西子針台3-11-4
- 石須 秀知 魚津埋没林博物館
〒937 魚津市釈迦堂814
- 石月 勇治 日野市ふるさと博物館
〒191 日野市神明4-16-1 TEL 0425-83-5100
〒191 日野市大坂上4-20-46
- 磯谷 達宏 財団法人国際生態学センター
〒231 横浜市中区山下町54 TEL 045-662-9211 FAX 045-662-9215
〒214 川崎市多摩区河原3-20-2 ザ・ドウシェル108
〒112 文京区小日向1-22-6
- 伊藤 洋 新潟県西蒲原郡弥彦村麓
伊藤 至 三鷹市大沢4-16-10
伊藤 信郎 品川区豊町3-10-18
伊藤 武 鎌倉市梶原3-7-1
伊藤 敏雄 長崎大学教養部生物学研究室
伊藤 秀三 長崎市文教町1-14 TEL 0958-47-1111 (3270) FAX 0958-43-1379
〒852 長崎市女の都2-34-12
〒840 佐賀市天祐1-15-21
- 岩村 政浩 新潟県刈羽郡小国町横沢206
岩野 俊逸 横浜市旭区白根町1-13-14
岩崎 五郎 八千代市八千代台北12-14-22
岩瀬 徹 秋田県仙北郡六郷町字古館89-2
岩田 芳隆 姫路市威徳寺町57-1
岩谷 成彦 富山大学理学部生物
岩坪 美兼 富山市五福3190 TEL 0764-41-1271
- 岩槻 邦男 立教大学理学部
〒171 東京都豊島区西池袋3-34-1
〒227 横浜市緑区鴨志田町815-29
- 伊沢 一男 栃木県河内郡上三川町5030
井関 智裕 東京都日野市三沢3-47-3-107
K
- 角野 康郎 神戸大学教養部生物
〒657 神戸市灘区鶴甲1-2-1 TEL 078-881-1212 (6257)
〒655 神戸市垂水区上高丸3-11-341

垣内 信一 石川県立柳田農業高等学校
〒928-03 石川県鳳至郡柳田村字柳田1部3
〒927-12 石川県珠洲市宝立町春日野27-60
TEL 0768-76-1211

上赤 博文 佐賀西高等学校
〒840 佐賀市城内1-4-25
〒849-03 佐賀県小城郡牛津町牛津152-4
TEL 0952-24-4331

上條 隆志 東京農工大農学部植生管理
〒183 府中市幸町3-5-8
〒186 国立市東2-5-19

神谷 平 〒446 安城市福釜町馬場11
神山 隆之 〒321-12 今市市平ヶ崎546
金栄 典子 〒921 金沢市八日市1-297-2
金井 弘夫 〒184 小金井市前原町5-8-7
金古 弘之 岐阜県教育センター
〒500 岐阜市藪田南5-9-1
〒501-51 岐阜県郡上郡白鳥町大島1806-25
TEL 0582-71-3325

金崎 公哉 〒228 座間市立野台3-36-10
菅野 昭 宮城県保健環境部環境保全課
〒980 仙台市青葉区本町3-8-1
〒981 仙台市青葉区国見3-4-35
TEL 022-211-2674

唐沢 耕司 熱帯資源植物研究所
〒904-22 具志川市栄野比1212-3
〒904-22 具志川市赤道944-1
TEL 098-972-0258

刈屋 寿 〒959-12 新潟県燕市灰方633
加崎 英男 〒158 東京都世田谷区等々力7-22-4
柏谷 博之 国立科学博物館 植物研究部
〒169 つくば市天久保4-1-1 TEL 0298-53-8978 FAX 0298-51-6619
〒311 大宮市差扇633-22

片平 高男 〒893-12 鹿児島県肝属郡高山町新富4629-6
加藤 君雄 〒010 秋田市泉上ノ町82-2
加藤 信英 〒999-76 山形県東田川郡藤島町古郡水押10
加藤 僖重 独協大学教養部
〒340 草加市学園町1-1
TEL 0489-42-1111

加藤 恵一 〒474 愛知県大府市共和町2-14-12 ハイセイントタワー202
加藤 範夫 〒465 名古屋市名東区上社4-135
勝山 輝男 神奈川県立博物館
〒250 小田原市入生田499
TEL 0465-21-1515
〒259-03 神奈川県足柄下郡湯河原町宮下273-23

葛山 博次 〒511-04 三重県員弁郡北勢町別名659-5
川端 義一 〒950 新潟市東中島4-12-21
川原 健彰 〒923-12 能美郡川北町草深そ10-1
川合 開司 日本サイアナミッド(株)
愛知県渥美郡田原町緑ヶ浜1-1
〒441 豊橋市花田町中ノ坪74-2-902
TEL 05312-2-3141

河野 和博 〒915 武生市村国3-58-2
河野 昭一 京都大学理学部植物学教室
〒606 京都市左京区北白川追分町
TEL 075-753-4131
〒611 宇治市五ヶ庄 京大職員宿舎931

川崎 哲也 〒336 浦和市高砂町4-16-5
川里 弘孝 〒854-06 長崎県南高来郡木浜町雲仙381-2
嘉弥真 国男 〒903-01 沖縄県西原町字翁長920-5
鬼川 徹 〒014-03 秋田県仙北郡角館町田町下18

- 近藤 健児 (株) ツムラ漢方生薬研究所
〒300-11 茨城県稲敷郡阿見町吉原3586 TEL 0298-89-3832
〒300-11 土浦市荒川沖東3-22-17 ツカハラハイツ103
- 近藤 勝彦 広島大学理学部附属植物遺伝子保管実験施設
〒739 東広島市鏡山1-4-3 TEL 0824-24-7490
- 此松 昌彦 大阪市立大学理学部地球学教室人類紀自然学
〒558 大阪市住吉区杉本3-3-138 TEL 06-605-2590 FAX 06-605-2522
〒558 大阪市住吉区杉本2-10-24 本城荘
- 近田 文弘 国立科学博物館植物研究部
〒305 つくば市天久保4-1-1 TEL 0298-53-8971
- 小清水 康夫 〒257 神奈川県秦野市下大槻1190
- 小杉 明 東京農業大学第一高等学校
〒156 世田谷区桜3-33-1 TEL 03-425-4481 FAX 03-420-7199
〒221 横浜市神奈川区六角橋5-7-11
- 小山 隆義 玉川大学農学部農学科生物科学研究室
〒194 東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL 0427-39-8285
〒194 東京都町田市玉川学園1-1-25-203
- 久保田 秀夫 〒321-14 日光市本町1573-2
- 工藤 岳 北海道大学大学院地球環境科学研究科
〒060 札幌市北区北10条西5丁目 TEL 011-706-2269
- 工藤 洋 Smithsonian Environmental Research Center
P.O. Box 28, Edgewater, MD 21037, U.S.A.
〒567 大阪府茨木市山手台3-21-22
- 鯨 幸夫 金沢大学教育学部
〒920-11 金沢市角間町 TEL 0762-64-5479 FAX 0762-64-5605
〒921 金沢市新保本1-153 中村ビル201
- 久米 修 〒761 高松市太田上町78-11
- 国澤 高明 福島県伊達農業改良普及所
〒960-06 福島県伊達郡保原町大字大泉字大地内
〒960-06 福島県伊達郡保原町字赤橋71
- 倉成 靖任 〒841 佐賀市成章町5-17
- 栗原 智昭 JICA MALAWI OFFICE
P.O.Box 30321, Capital City, Lilongwe 3, MALAWI
- 黒野 俊夫 国際ツバキ協会アジア支部
〒170 豊島区東池袋3-1-1 TEL 03-984-9690 FAX 03-987-0169
〒248 鎌倉市極楽寺4-3-8
- 黒崎 史平 頌栄短期大学
〒658 神戸市東灘区御影山手町1-18 TEL 078-842-2541
〒651 神戸市中央区中島通1-1-25-102
- 黒沢 美房 〒438 磐田市二番町2426-32
- 桑原 道衛 〒502 岐阜市栗野東2-149
- 許田 倉園 玉川大学農学部
〒194 東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL 0427-28-3384
〒116 荒川区東尾久4-27-25

M

- 牧 雅之 福岡教育大学生物学教室
〒811-41 宗像市赤間729 TEL 0940-35-1387 FAX 0940-35-1716
- 牧野 恭次 新潟市立高志高等学校
〒950 新潟市高志1-15-1 TEL 025-286-6911
〒950-21 新潟市新通1211-6
- 丸野 勝敏 〒891-37 鹿児島県熊毛郡南種子町茎永774-3
- 丸山 巖 〒699-18 仁多郡横田町大字中村1011-1

丸山 幸平 新潟大学農学部
〒950-21 新潟市五十嵐二の町 TEL 025-262-6624 FAX 025-263-1659
〒950-21 新潟市五十嵐中島1-16-16

政木 淑人 〒228 相模原市相武台団地1-6-5-43
政谷 徳治 〒927-06 石川県珠洲郡内浦町字松波14-58甲2
増田 準三 〒930 富山市呉羽富田町4252-7
増田 和明 〒377-08 群馬県吾妻郡吾妻町大字原町573-1
柁田 信彌 東京農業大学造園学科
〒156 世田谷区桜丘1-1-1

益村 聖 筑後市立筑後中学校
〒833 筑後市大字水田1046-1 TEL 0942-52-4148
〒833 筑後市大字山ノ井76

的場 みち代 〒643 和歌山有田郡湯浅町湯浅1410
松田 義徳 〒012 湯沢市杉沢字林道上239
松田 行雄 〒390 松本市旭1-9-13
松井 浩 〒943 新潟県上越市栄町2-24
松井 宏光 松山東雲短期大学生物
〒790 松山市桑原町3-2-1 TEL 0899-31-6211 FAX 0899-33-5559
〒790 松山市土居田町443-8

松井 哲哉 〒180 武蔵野市吉祥寺南町2-15-8
松川 昌弘 〒069 江別市大麻泉町19-5
松本 雅道 〒439 静岡県小笠郡菊川町半済16-3
松本 定 国立科学博物館筑波実験植物園
〒305 つくば市天久保4-1-1 TEL 0298-51-5159 FAX 0298-51-6619
〒305 つくば市並木4-801-303

松村 敏則 〒731-02 広島市安佐北区可部東2-35-34
松尾 和人 農業環境技術研究所 保全植生研究室
〒305 つくば市観音台3-1-1 TEL 0298-38-8327

松崎 秀人 山口県立宇部高等学校
〒755 山口県宇部市寺の前 TEL 0836-31-1055
〒755 山口県宇部市藤山区西平原

真崎 博 〒744 下松市万福寺
真崎 久 〒755 山口県宇部市野原2丁目2-73-122
路川 宗夫 筑波大学生物科学系
〒305 つくば市天王台1-1-1

御影 雅幸 金沢大学薬学部薬草園
〒920 金沢市宝町13-1 TEL 0762-62-8151 (4427) FAX 0762-64-1088
〒930-01 富山市呉羽中の町3078-52

南木 陸彦 流通科学大学
〒651-21 神戸市西区学園西町3-1 TEL 078-794-3555 (312)
〒673 神戸市西区北別府3-18-3 サンライフ雅203

南 正祝 〒518-11 三重県上野市治田5216-1
南谷 忠志 〒880 宮崎市恒久5-4-7
三島 美佐子 東京都立大学牧野標本館
〒192-03 八王子市南大沢1-1

三谷 進 〒761 香川県高松市上の町2-11-14
三浦 威 〒737-23 広島県佐伯郡沖美町三能972-5
三浦 康男 〒465 名古屋市名東区亀の井1-176
宮一 諭起範 〒929-03 河北郡津幡町清水ホ 337-2
三宅 貞敏 〒753 山口市金古曾町8-3
宮本 敬之助 〒472 知立市新地町西広見30-19

宮本 太 東京農大農学科
 〒156 世田谷区桜丘1-1-1
 〒229 相模原市大野台3-19-6
 宮脇 昭 財団法人国際生態学センター (TISE)
 〒240-01 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39 湘南国際村センター内
 TEL 0468-58-1220 FAX 0468-58-1224
 〒940 横浜市保土ヶ谷区仏向町1321-4
 宮崎 弘規 〒490-11 愛知県海部郡甚目寺町甚目寺松山73
 水野 瑞夫 〒502 岐阜市三田洞東3-22-1
 水島 うらら 〒183 府中市清水ヶ丘2-17-7
 百原 新 千葉大学園芸学部緑地・環境学科
 〒271 千葉県松戸市松戸648 TEL 0473-63-1221(4435)
 〒271 千葉県松戸市岩瀬632-11 コーポ藤201
 森 俊 〒981-15 角田市角田字中島下258
 森田 弘彦 農業研究センター耕地利用部水田雑草研究室
 〒305 つくば市観音台3-1-1
 森田 竜義 新潟大学教育学部生物
 〒950-21 新潟市五十嵐二の町8050
 守矢 淳一 〒254 平塚市御殿1-1-15
 守谷 茂樹 〒467 名古屋市瑞穂区膳棚町2-28
 諸井 芳太郎 〒437 静岡県袋井市広岡1686
 本宮 宏一 〒272-01 千葉県浦安市富岡3-3 京成サンコーポD-1111
 元吉 健一 〒272-01 千葉県市川市香取1-3-8 香取ハイツ102号
 村上 雄秀 〒131 東京都墨田区押上3-40-13
 村上 哲明 東大理学部附属植物園 日光分園
 〒321-14 日光市花石町1842 TEL 0288-54-0206 FAX 0288-54-3178
 〒321-14 今市市平が崎870 丸今ハイツ405
 村瀬 忠義 〒526 長浜市港町1-8
 村田 源 〒615 京都市西京区松尾大利町20-55
 村田 威夫 柏井高等学校
 〒262 千葉市花見区柏井町1452
 〒285 佐倉市江原台1-18-16
 邑田 仁 東京都立大学牧野標本館
 〒192-03 八王子市南大沢1-1 TEL 0426-77-2425
 〒330 大宮市寿能町2-165
 室井 綽 〒670 姫路市五軒邸2-182-107
 N
 長井 真隆 富山大学教育学部
 〒930 富山市五福3190 TEL 0764-41-1271(2420)
 〒938 黒部市金屋131-1
 長井 幸雄 富山高等学校
 〒930-11 富山市太郎丸1 TEL 0764-21-2925
 〒939-02 富山県射水郡大島町小島924
 永井 博 名古屋市立植田南小学校
 〒468 名古屋市天白区植田3-301 TEL 052-805-5711 FAX 052-802-7536
 〒470-01 愛知県愛知郡日進町米野木南山973-141
 長瀬 秀雄 〒506 高山市西之一色町3-391
 名倉 智道 湖西市教育委員会 学校教育課
 〒431-04 湖西市吉美3268 TEL 05357-6-4792 (395)
 〒431-04 湖西市梅田130
 内藤 俊彦 〒981 仙台市青葉区三条町14-1-31
 内藤 宇佐彦 〒431-04 湖西市新所2977

内藤 登喜夫 〒616 京都市右京区太秦北路町11
中田 政司 富山県植物公園中央植物園
〒939-27 富山県婦負郡婦中町上轡田42 TEL 0764-66-4187
〒930 富山市城北町1-5-302

中柴 義威 石川県林業経営課
〒920 金沢市広坂2-1-1 TEL 0762-23-9244 FAX 0762-23-9478
〒921 金沢市窪5-86

中垣 明子 金沢大学理学部生物
〒920-11 金沢市角間町 TEL 0762-64-5976 FAX 0762-64-5976
〒920 金沢市城南2-12-20

中込 司郎 〒400-01 山梨県中巨摩郡敷島町長塚246
中越 信和 広島大学総合科学部自然環境
〒724 東広島市鏡山1-7-1 TEL 0824-24-6511 FAX 0824-24-0758

中井 秀樹 北海道大学 環境科学 生態
〒060 札幌市北区北10西5
〒001 札幌市北区北13条西3丁目 サンシティー北大前802

中池 敏之 千葉県立中央博物館
〒260 千葉県中央区青葉町955-2 TEL 043-265-3111 FAX 043-266-2481
〒273-01 鎌ヶ谷市東道野辺7-3-8

中村 建爾 茨城大学教育学部生物学教室
中村 直美 〒310 水戸市文京2-1-1 TEL 0292-26-1621

中村 徹 筑波大学農林学系
〒305 つくば市天王台

中村 幸人 作新学院大学 経営学部
〒321-32 宇都宮市竹下町608 TEL 0286-67-7111 (321) FAX 0286-67-7110
〒241 横浜市旭区左近山448-3 左近山団地9-8-406

中村 武久 東京農業大学農学部
〒156 世田谷区桜丘1-1-1 TEL 03-420-2131 (569)
〒157 世田谷区大蔵1丁目2-1-803

中村 吉和 富山県立水橋高等学校
〒939-05 富山市水橋中村24 TEL 0764-79-1078 FAX 0764-79-1077
〒938 黒部市浜石田26

中村 弘和 環境指標生物株式会社
〒171 豊島区高田3-16-4 鹿野ビル TEL 03-5951-1671
〒233 神奈川県横浜市港南区芹ヶ谷4-8-1

中西 こずえ 長崎大学教養部生物教室
〒852 長崎市文教町1-14 TEL 0958-47-1111 (3272)
〒852 長崎市大手町477-53

中西 弘樹 長崎女子短期大学
〒850 長崎市弥生町666 TEL 0958-26-5344 (40)
〒852 長崎市大手町477-53

中西 由美子 福井市自然史博物館
〒910 福井市足羽上145
〒910 福井市足羽1-7-15 コーポあじさい203

中新田 育子 東京大学理学部地理学教室
〒113 文京区本郷7-3-1 TEL 03-3812-2111
〒206 東京都稲城市向陽台4-4-1 ビュータワーズ3-801 小林方

中藤 成実 新宿高校
〒151 渋谷区千駄谷6-2-1
〒207 東大和市奈良橋1-363

中藪 俊二 〒939-16 富山県西礪波郡福光町在房360
中山 洵 〒384-01 佐久市鍛冶屋194

中山 修一 〒229 相模原市西大沼2-20-5 フラワーベルマンション302
 並川 寛司 北海道教育大学 札幌分校 生物
 〒002 札幌市北区あいの里5条3丁目
 難波 早苗 〒709-21 岡山県御津郡御津町河内773
 ナンダ ウタミ 金沢大学理学部生物
 〒920-11 金沢市角間町 TEL 0762-64-5976 FAX 0762-64-5976
 〒920 金沢市菊川1-19-13 マンションことじ
 成ヶ沢 久仁子 〒983 仙台市宮城野区岩切3-12-16
 鳴橋 直弘 富山大学理学部生物
 〒930 富山市五福3190 TEL 0764-41-1271 (2344)
 成瀬 亮司 岐阜東高等学校
 〒500 岐阜市野一色4-17-1 TEL 3582-46-2956 FAX 0582-47-9941
 〒501-31 岐阜市岩田東2-280
 成島 明 〒305 つくば市下平塚332
 西 勝幸 〒158 世田谷区奥沢3-24-10
 西田 誠 〒281 千葉市朝日丘町3261 にれの木台2-11-303
 西田 治文 国際武道大学一般教育
 〒299-52 勝浦市新官841 TEL 0470-73-4111 FAX 0470-73-4148
 〒281 千葉市花見川朝日ヶ丘町2690-1-205
 西井 武秀 〒926 石川県七尾市藤橋町未部16-5
 西川 洋子 北海道環境科学研究センター
 〒060 札幌市北区北19条12 TEL 011-747-2211(497)
 西川 恒彦 北海道教育大学
 〒070 旭川市北門町9丁目 TEL 0166-51-6151
 西本 孝 岡山県自然保護センター
 〒709-05 岡山県和気郡佐伯町田賀730
 〒709-08 岡山県赤磐郡山陽町山陽団地4-6-4
 西村 直樹 岡山理科大学 蒜山研究所
 〒717-06 岡山県真庭郡川上村上福田 TEL 0876-66-3642
 〒717-05 岡山県真庭郡八東村中福田145-1
 野田 昭三 大阪学院大学生物
 〒564 吹田市岸部南2-36-1 TEL 06-381-8434
 〒569 高槻市塚脇1-11-21
 野上 達也 石川県白山自然保護センター
 〒920-33 石川県石川郡吉野谷村字木滑ヌ4 TEL 07619-5-5321
 〒920-25 石川郡吉野谷村字吉野乙8
 野口 達也 〒321 宇都宮市東宿郷6-7-10
 野呂 征男 名城大学 薬学部
 〒468 名古屋市天白区八事山150 TEL 052-832-1781
 〒468 名古屋市天白区植田山2-208
 野坂 志朗 愛知教育大学生物学教室
 〒448 刈谷市井ヶ谷町広沢1 TEL 0566-36-3111
 能城 修一 森林総合研究所木材利用部
 〒305 茨城県稲敷郡莩崎町松の里 TEL 0298-73-3211 (574)
 〒305 つくば市並木2-214-103
 野寄 玲児 神戸女学院大学
 〒660 兵庫県西宮市岡田山4-1 TEL 0798-51-8675 FAX 0798-51-8560
 〒662 兵庫県西宮市甲東園1-9-1-301
 沼田 真 千葉県立中央博物館
 〒280 千葉市青葉町955-2 TEL 043-265-3111
 〒260 千葉市弁天町74-13

- 落石 秀行 〒811-01 福岡県粕屋郡新宮町大字湊294
 緒方 健 森林総合研究所 木材利用部
 〒305 茨城県稲敷郡莒崎町松の里1 TEL 0298-73-3211 (573)
 〒305 つくば市上広岡460-44
- 小川 誠 徳島県立博物館
 〒770 徳島市八万町向寺山徳島県文化の森総合公園 TEL 0886-68-3630
 〒770 徳島市八万町下福万78-1 中山住宅
- 荻巢 樹徳 〒565 豊中市上新田3-5-26-105
 荻山 恒弘 〒501-28 岐阜県武儀郡洞戸村下洞戸540
 大場 達之 〒158 世田谷区奥沢8-21-2
 大場 秀章 東京大学 総合研究資料館
 〒113 文京区本郷7-3-1 TEL 03-812-2111 (2839) FAX 03-815-7053
 〒277 千葉県柏市根戸427-5 北柏第2住宅2-203
- 大葉 英雄 東京水産大学資源育成学科
 〒108 港区港南4-5-7
- 大橋 広好 東北大学 理学部 生物
 〒980 仙台市荒巻青葉 TEL 022-222-1800 FAX 022-263-9206
- 大平 豊 東洋テックス(株)
 〒763 丸亀市昭和町22 TEL 0877-22-7363
 〒763 丸亀市城東町2-11-18
- 大井 信夫 京都大学生態学研究センター
 〒606 京都市左京区北白川西町
 〒611 宇治市木幡南山畑28-28
- 大石 俊雄 〒960-06 福島県伊達郡保原町字宮内町90
 大久保 嘉雄 福井県教育研究所
 〒910 福井市福新町2505
 〒919-06 福井県坂井郡金津町坂の下1-204
- 大久保 敦 東京学芸大学付属高校大泉校舎
 〒178 練馬区東大泉5-22-1 TEL 03-3924-4239 FAX 03-3924-4277
 〒187 小平市喜平町3-1-3-208
- 大森 威宏 群馬県立武尊高等学校
 〒378-03 群馬県利根郡利根村平川1406
 〒378 群馬県沼田市柳町2290-2 柳ハイツ201号
- 大野 景德 市立市川自然博物館
 〒272 市川市大町284 TEL 0474-39-0477
 〒276 八千代市八千代台北15-23-6
- 大野 正男 東洋大学自然科学研究室
 〒351 朝霞市岡2-11-10
 〒350-02 埼玉県鶴ヶ島市脚折町2-19-14
- 大澤 達郎 〒049-01 北海道上磯郡上磯町常盤1-6-2-101
 大澤 毅守 千葉大学理学部生物系統学研究
 〒260 千葉市弥生町1-33 TEL 0432-51-1111 (2636) FAX 0432-56-5793
 〒260 千葉市作草町833-2
- 太田 道人 富山市科学文化センター
 〒939 富山市西中野区1-8-31 TEL 0764-91-2123 (236) FAX 0764-21-5950
 〒939-05 富山市水橋中村町164
- 大滝 末男 〒123 足立区梅田3-26-28
 大塚 孝一 〒380 長野市宮沖199-1
 大槻 真一 〒150 渋谷区恵比寿西2-10-7
 岡 国夫 〒754 山口県吉敷郡小郡町田町
 岡田 た江 〒532 大阪市淀川区東三国6-17-22 山口マンションパークレーン507号

岡本 素治 大阪市自然史博物館
〒546 大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL 06-697-6221 FAX 06-697-6225

沖田 貞敏 〒014 秋田県大曲市日の出町1-20-16-4

沖津 進 千葉大学園芸学部環境緑地学科
〒271 松戸市松戸648 TEL 0473-63-1221 (437)
〒271 松戸市松戸648 千葉大学松戸宿舎101

奥田 浩之 〒486 春日井市黒銚町字黒銚145-4

奥村 直明 〒486 春日井市烏居松町1-24-4

奥富 清 東京農工大農学部
〒183 府中市幸町3-5-8

小野 真 アジア船測(株)環境部
〒243 厚木市旭町5-42-32 TEL 0462-29-0792
〒242 大和市南林間2-7-4

尾上 元 〒420 静岡市千代田2-3-18

長田 武正 〒818-01 福岡県太宰府市観世音寺277

乙益 正隆 〒868 人吉市土手町29-5

小崎 昭則 〒227 横浜市青葉区青葉台2-7-7 丸喜荘201

尾崎 富衛 〒950-21 新潟市西小針台2-8-30

小沢 正幸 〒357-01 埼玉県入間郡名栗村下名栗243

R

李 承娥 千葉大学園芸学部緑地生態学研究室
〒271 松戸市松戸648 TEL 0473-63-1221(4438) FAX 0473-66-2234

S

佐川 昇 〒990 山形市東原町3-8-13

斉木 保久 神戸学院大学薬学部
〒651-21 神戸市西区伊川谷町 TEL 078-974-1551
〒673 明石市荷山町2774 朝霧荘

斎木 健一 千葉県立中央博物館
〒260 千葉市中央区青葉町955-2 TEL 043-265-3111 FAX 043-266-2481

斉藤 慧 〒969-35 福島県耶麻郡塩川町東栄町1-8-5

斎藤 信夫 〒030 青森市大野若宮100-18

斉藤 寛昭 〒916 鯖江市中野町16-2

斉藤 芳夫 〒912 大野市元町1-7

斎藤 毅 名城大学理工学部地学研究室
〒486 名古屋市天白区塩釜口1-501 TEL 052-832-1151 (5253)
〒470-11 愛知県豊明市沓掛町小廻間16-37

坂口 清一 〒760 高松市番町3-19-4

佐野 修 金沢水族館
〒920 金沢市東御影町450 TEL 0762-52-5234 FAX 0762-51-4240
〒920-11 金沢市鈴見台3-15-10

笹川 通博 新潟県立相川高等学校
〒952-15 新潟県佐渡郡相川町下相川162 TEL 0259-74-3257

佐々木 豊 〒986 石巻市水明南2-11-17

佐々木 太一 〒078-13 北海道上川郡当麻町緑郷1区

佐々木 寧 埼玉大学経済短期大学部
〒338 浦和市下大久保255 TEL 048-852-2111 (2996)
〒257 秦野市尾尻450-8

笹木 智恵子 〒914 敦賀市東洋町6-37

指田 豊 東京薬科大学薬用植物学教室
〒192-03 八王子市堀之内1432-1
〒192-03 八王子市南陽台3-20-7

佐藤 孝敏 〒410 沼津市西沢田1044-4

佐藤 三千代 〒879-48 大分県玖珠郡九重町野上1640
 佐藤 政一 〒014-05 秋田郡仙北郡西木村門屋六本杉136
 佐藤 徳次 〒492 稲沢市島町高須賀1150-3
 佐藤 嘉彦 横浜国立大学教育学部生物
 〒240 横浜市保土ヶ谷区常盤台156 TEL 045-335-1451 (2293)
 〒251 藤沢市片瀬海岸3-6-20
 佐藤 卓 富山県立高岡高等学校
 〒933 高岡市中川園町1-1 TEL 0766-22-4682
 〒939-05 富山市水橋の場395
 佐藤 謙 北海道学園大学教養部
 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1-40 TEL 011-841-1161 (314)
 〒004 札幌市厚別区厚別東2条5丁目17-22
 佐藤 隆雄 新潟県立新津高等学校
 〒956 新津市秋葉1-19-1
 〒950-01 新潟県中蒲原郡亀田町船戸山2-5-1
 佐藤 創 北海道立林業試験場道北支場
 〒098-28 北海道中川郡中川町字誉300 TEL 01656-7-2164
 佐藤 洋一郎 国立遺伝学研究所
 〒411 三島市谷田1-111 TEL 0559-75-0771 FAX 0559-71-3651
 〒411 三島市芙蓉台1-7-10
 佐藤 千芳 熊本学園大学付属高校
 〒862 熊本市大江2-5-1 TEL 096-371-2551 FAX 096-372-6127
 〒861-55 熊本市鶴羽田町854-9
 里見 哲夫 〒370-26 群馬県甘楽郡下仁田町下小坂48
 澤岷 安喜 沖縄県林業試験場
 〒905 名護市字名護3626
 沢村 保昌 〒519-14 三重県伊賀町川東
 沢崎 孝也 〒919-01 福井県今庄町八飯30-22
 関 繁雄 〒950-21 新潟市寺尾22-13
 関根 正平 〒940 長岡市高町1-59-100
 関塚 正 〒185 国分寺市西町1-3-3
 瀬沼 賢一 小千谷市役所
 〒947 小千谷城内2-7-5 TEL 0258-83-3511 (363) FAX 0258-83-2789
 〒947 小千谷市桜町1427-1
 芹沢 俊介 愛知教育大学 生物
 〒448 刈谷市井ヶ谷町広沢1
 瀬戸 剛 〒631 奈良市青垣台2-3-6
 柴田 敏郎 国立衛生試験所
 〒305 つくば市八幡台1 TEL 0298-38-0571
 柴田 治 信州大学理学部生物
 〒390 松本市旭3-1-1
 茂垣 はるえ 〒311-41 水戸市大塚町1863-90
 島袋 守成 〒904-21 沖縄県具志川市兼箇段228
 島袋 敬一 〒903 沖縄県那覇市首里町山川町1-95
 島野 好次 〒374-01 群馬県邑楽郡板倉町大字西岡甲1362
 島野 光司 千葉大学園芸学部緑地生態学研究室
 〒271 千葉県松戸市松戸648 TEL 0473-63-1221 (4438)
 〒132 江戸川区西瑞江2-19
 清水 大典 〒992 米沢市東2-3-72
 清水 建美 金沢大学理学部生物
 〒920-11 金沢市角間町 TEL 0762-64-5706 FAX 0762-64-5976
 〒920 金沢市涌波2-7-15涌波宿舎C-3

下田 路子 東和科学株式会社
 〒730 広島市中区舟入町6-5
 〒730 広島市中区鶴見町14-21
 下山田 隆 〒673-14 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学学生寮11-305
 志村 義雄 〒420 静岡市大岩2-20-11
 進藤 熊太郎 〒014 秋田県大曲市戸巻町3-56-5
 新里 孝和 〒905-14 沖縄県国頭村字与那685
 塩田 惇 旭川市立日新小学校
 〒070 旭川市宮下通12丁目 TEL 0166-24-1291
 〒070 旭川市十条12丁目右4号
 白井 伸和 金沢大学理学部生物
 〒920-11 金沢市角間町 TEL 0762-64-5705 FAX 0762-64-5976
 〒920-11 金沢市俵町ラ1番地-1
 白崎 仁 新潟薬科大学生物学教室
 〒950-21 新潟市上新栄町5-13-2 TEL 025-269-3170 (258) FAX 025-260-1415
 〒950-21 新潟市五十嵐1の町6379-39
 白崎 重雄 〒910 福井市大手2-19-7
 白崎 仁 新潟薬科大学生物学教室
 〒950-21 新潟市上新栄町5-13-2 TEL 025-269-3170 (258) FAX 025-260-1415
 〒950-21 新潟市五十嵐1の町6379-39
 白沢 芳一 〒010 秋田市牛島西4-26-7
 染野 邦夫 〒167 杉並区天沼2-26-3
 須藤 志成幸 群馬県立前橋第二高等学校
 〒371 前橋市文京町2-20-3 TEL 0272-24-0513
 〒372 伊勢崎市太田町400-4
 須賀 瑛文 〒509-02 岐阜県可児市若葉台3-168
 菅野 修三 〒974 いわき市植田町中央2-6-7
 菅沼 孝之 奈良女子大理学部生物学教室
 〒630 奈良市北魚屋西町 TEL 0742-23-1131 (334)
 〒639-11 大和郡山市筒井町239-41
 菅原 久夫 〒411 静岡県駿東郡長泉町東野692-323
 菅原 亀悦 〒980 仙台市青葉区東勝山3-19-10
 菅谷 貞男 〒982 仙台市太白区向山1-2-7
 杉江 良治 アルス コンサルタンツ(株)
 〒921 金沢市横川2-30 TEL 0762-48-4004 FAX 0762-48-4174
 〒923-12 石川県能登郡辰口町字緑が丘10-158
 杉本 守 〒939-03 富山県射水郡小杉町三ヶ1026-1
 杉村 康司 〒270-01 流山市若葉台58-316
 杉野 孝雄 〒436 掛川市南1丁目4-18
 杉田 久志 岩手大農学部演習林
 〒020 盛岡市上田3-18-8
 杉山 明子 埼玉女子短期大学
 〒350-13 狭山市上広瀬2011 TEL 0429-53-1515
 須山 知香 豊橋市自然史博物館
 〒441-31 豊橋市大岩町字大穴1-238 TEL 0532-41-4747
 〒440 豊橋市佐藤町字オノ神18-1 メゾンキムラ1-2
 鈴木 一郎 〒439 静岡県小笠郡菊川町東横地1283-1
 鈴木 兵二 〒731-01 広島市安佐南区高取北2-15-27
 鈴木 邦雄 横浜国立大学経営学部
 〒240 横浜市保土ヶ谷区常盤台156 TEL 045-335-1451 (2557)
 〒240 横浜市保土ヶ谷区峰岡町1-94-18

鈴木 三男 東北大学理学部生物学教室
〒980-77 仙台市青葉区青葉 TEL 022-222-1800 (3492)
〒981 仙台市青葉区中山5-18-2-204

鈴木 善雄 株式会社 グリーンハート
〒288 座間市相武台1-4512駅前スターハイッD号 TEL 0462-51-7576
〒206 多摩市聖ヶ丘3-52-2-101

鈴木 武 人と自然の博物館
〒669-13 三田市弥生が丘6 TEL 0795-59-2001

鈴木 憲仁 芦川中学校
〒406 山梨県東八代郡芦川村中芦川 TEL 0552-98-2027
〒406 山梨県八代郡御坂町尾山203

鈴木 昌友 茨城大学教育学部生物
〒310 水戸市文京2-1-1 TEL 0292-26-1621 (371) FAX 0292-25-8828
〒310 水戸市堀町932-7

鈴木 和雄 東京都立大学牧野標本館
〒192-03 八王子市南大沢1-1 TEL 0426-77-1111
〒222 横浜市港北区師岡町418 グリーンヒル大倉山C-104

鈴木 一嘉 大阪市立大学理学部生物学教室
〒558 大阪市住吉区杉本3-3-138 TEL 06-605-2575

鈴木 英治 鹿児島大学教養部生物
〒890 鹿児島市郡元1-21-30

小路 登一 〒939-06 富山県下新川郡入善町上野352
T

田畑 満大 〒894 名瀬市朝仁新町6-8
館 豊吉 〒933 高岡市二塚533
橘 ヒサ子 北海道教育大学旭川分校
〒070 旭川市北門町9 TEL 0166-51-6151 (311)
〒070 旭川市春光町2区1条 合同宿舎501-31

太刀掛 優 〒737-01 呉市広塩焼2-8-12
平 慎三 〒956 新津市新町3-9-25

田島 光夫 仁愛女子高等学校
〒910 福井市宝永4-9-24 TEL 0776-24-0493 FAX 0776-24-0493
〒910 福井市みのり1-24-34

高田 順 〒010 秋田市八橋田五郎2-6-36

高木 政喜 石川県立金沢錦丘高校
〒921 金沢市窪6-218 TEL 0762-41-8341 FAX 0762-41-8495
〒921 金沢市御影町18-15

高橋 秀男 〒247 横浜市栄区鍛冶ヶ谷町251-8
高橋 新 〒270 松戸市新松戸5-1 新松戸中央パークハウス C-215
高橋 務 〒959-15 新潟県南蒲原郡田上町吉田新田丁270-26
高橋 弘 岐阜大学教育学部生物
〒501-11 岐阜市柳戸1-1 TEL 058-293-2258
〒501-11 岐阜市御望951-143

高橋 一臣 富山県中央植物園
〒939-27 富山県婦負郡婦中町上轡田42 TEL 0764-66-4187
〒930 富山市星井町1-3-18 林ハイツ505号

高橋 英樹 北海道大学農学部附属植物園
〒060 札幌市中央区北3西8 TEL 011-221-0066 FAX 011-221-0664
〒065 札幌市東区北27条東3 北光住宅501-11

高橋 晃 人と自然の博物館
〒669-13 三田市弥生が丘6 TEL 0795-59-2001 FAX 0795-59-2007
〒561 豊中市城山町3-1-13-303

高野 裕行 〒502 岐阜市福光東1-11-3
 高尾 静代 〒680 鳥取市布勢385
 高良 拓夫 那覇西高等学校
 〒901-13 沖縄県那覇市字金城180
 高須 英樹 和歌山大学教育学部生物
 〒640 和歌山市栄谷930 TEL 0734-54-0361 (5361) FAX 0734-54-0386
 〒640 和歌山市大谷845-138
 高杉 欣一 〒272 市川市真間2-13-9
 高田 真一 〒719-23 岡山県川上郡成羽町中野2937
 武田 義明 神戸大学発達科学部
 〒657 神戸市灘区鶴甲3-11 TEL 078-881-1212 (7185)
 〒565 吹田市五月が丘西1-A409
 竹原 明秀 岩手大学人文社会科学部生物
 〒020 盛岡市上田3-18-34 TEL 0196-23-5171 (2811) FAX 0196-54-2289
 〒020-01 盛岡市高松4-17-20-101
 竹中 則夫 神戸女学院大学人間科学部
 〒662 西宮市岡田山4-1 TEL 0798-51-8669
 〒665 宝塚市野上6-14-27
 竹迫 賢一 鹿児島大学霧島リハビリテーションセンター
 〒899-66 鹿児島県始良郡牧園町高千穂3930-7
 〒895 川内市大小路町53-4
 滝田 謙讓 〒085 釧路市武佐2-34-21
 田丸 豊生 広島市教育委員会
 〒730 広島市中区国泰寺1-4-21 TEL 082-245-2111 (4697)
 〒731-02 広島市安佐北区三入南2-9-6
 田村 道夫 近畿大学生物理工学部
 〒649-64 和歌山県那珂郡打田町 TEL 0736-77-3888
 〒562 箕面栗生外院4-25-7
 田中 徳久 〒245 横浜市泉区和泉町4228-3 サンメゾン201
 田中 昭彦 〒680 鳥取市岩倉414-12
 田中 稔幸 岐阜薬科大学薬学教室
 〒502 岐阜市三田洞東5-6-1
 田中 真澄 〒196 昭島市朝日町2-1-14-203
 田中 俊弘 岐阜薬科大学
 〒502 岐阜市三田洞東5-6-1 TEL 0582-37-3931 (258) FAX 0582-37-5979
 〒503-02 岐阜県安八郡輪之内町大藪712
 田中 靖子 昭和薬科大学薬学教室
 〒194 町田市東玉川学園3-3165 TEL 0427-21-1511 (2510)
 〒156 世田谷区経堂4-26-14
 田中 教之 帝京大学文学部
 〒192-03 八王子市大塚359 TEL 0426-76-8211
 棚谷 満広 〒311-38 茨城県行方郡麻生町小高795
 谷川 智彦 北陸製薬(株)
 〒911 勝山市猪野口37-2-1 TEL 0779-88-5121 FAX 0779-88-3930
 〒911 勝山市旭町2-5-44
 谷口 森俊 〒514-11 久居市烏木町413-2
 谷口 文明 富山県立水橋高等学校
 〒939-05 富山市水橋中村24 TEL 0764-79-1078 FAX 0764-64-1077
 〒939-07 富山県下新川郡朝日蛭谷427
 谷本 智昭 〒760 高松市みやま町
 田代 周史 〒868-02 熊本県球磨郡五木村乙407-2

- 立石 庸一 琉球大学教育学部生物学教室
〒903-01 沖縄県千原1番地 TEL 098-895-2221 (2447)
- 田沢 祐介 〒188 田無市本町7-16-24
- 寺林 進 (株)ツムラ 生物化学研究所
〒300-11 茨城県稲敷郡阿見町吉原3586 TEL 0298-89-3832
〒300-12 牛久市女化町1147
- 寺田 和雄 東北大学理学部生物
〒980 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉
- 寺下 友三郎 〒927-06 珠洲郡内浦町秋吉8-18-1
- 千々布 義朗 〒852 長崎市若草町5-23
- 等々力 政彦 〒565 大阪府吹田市藤白台4丁目12-11 浜辺登志様方
- 富樫 誠 〒401-05 山梨県南都留郡忍野村大字内野4400
- 遠山 三樹夫 横浜国立大学教育学部生物
〒240 横浜市保土ヶ谷区常盤台156 TEL 045-335-1451 (2291)
〒222 横浜市港北区篠原1-4-3
- 富永 達 信州大学農学部付属農場
〒399-45 長野県上伊那郡南箕輪村8304 TEL 0265-72-5255 (602)
〒399-45 長野県上伊那郡南箕輪村8304 信州大学宿舎23号
- 富永 明良 緑化技術株式会社
〒556 大阪市浪速区元町3-1-3-303 TEL 06-644-3146 FAX 06-645-7506
- 富岡 和俊 〒511 桑名市大字西別所字奥沢1105-8
- 友成 孟宏 柴坂小学校
〒771-21 徳島県美馬郡美馬町南原26 TEL 0883-63-2039
〒771-13 徳島県板野郡上板町瀬部1147-1
- 鳥嶋 昭信 〒923-12 能美郡辰口町字松が岡1-6
- 鳥居 喜一 〒441-13 新城市西新町12
- 登坂 裕一 新潟南高等学校
〒958 新潟市上所1-3-1
〒958 村上市南町2-10-19鈴木緑方
- 坪井 聡 〒254 平塚市纏322-1
- 土屋 守 〒278 野田市岩名2-46-7
- 津田 智 岐阜大学附属流域環境研究センター
〒501-11 岐阜市柳戸1-1 TEL 0582-30-1111 FAX 0582-30-1260
- 辻 誠治 〒124 東京都葛飾区四つ木1-34-6
- 辻 誠一郎 国立歴史民族博物館
〒285 千葉県佐倉市城内町117 TEL 043-486-0123
〒285 千葉県佐倉市大蛇町411-107
- 鶴舎 博 旭川市立旭川第五小学校
〒078 旭川市東旭川町東桜岡72 TEL 0166-36-3441
〒078 旭川市東光17条4丁目
- 筒井 貞雄 〒815 福岡市南区平和2-11-8
- 津山 尚 〒112 文京区小日向3-10-10
- U
- 内田 智美 〒939-23 富山県婦負郡八尾町福島畑田340-1 グリーンヒル八尾305号
- 上田 豊 〒463 名古屋市守山区森孝東2-814 森孝住宅1-506号
- 植松 春雄 〒408 山梨県北巨摩郡長坂町中島165
- 植松 茂 〒098-57 北海道枝幸郡浜頓別町緑が丘西
- 植村 滋 北海道大学農学部附属雨龍地方演習林
〒096 北海道名寄市徳田250 TEL 01654-2-4264 FAX 01654-3-7522
- 植村 修二 大阪府立園芸高等学校
〒563 池田市八王子2-5-1 TEL 0727-61-8830
〒562 箕面市今宮4-7-35

上野 雄規 白石市立深谷小学校
〒989-07 白石市福岡深谷字松田23 TEL 0224-25-3536
〒989-02 白石市城北町7-28

上野 健 千葉大学園芸学部緑地生態学研究室
〒271 松戸市松戸648 TEL 0473-63-1221 (4438)
〒271 松戸市松戸新田19-15-202

植之原 耕治 〒441-02 愛知県宝飯郡音羽町赤坂台703-61-8

植田 邦彦 金沢大学理学部生物
〒920-11 金沢市角間町 TEL 0762-64-5707 FAX 0762-64-5976
〒921 金沢市平和町1-3-6 平和宿舎A-2-45

馬田 勝義 〒857-11 佐世保市黒髪町4899-99

梅林 正芳 金沢大学理学部生物
〒920-11 金沢市角間町 TEL 0762-64-5704
〒921 金沢市緑が丘8-18

梅原 芳宏 〒458 名古屋市緑区鳴海町字黒石2-1414

梅原 徹 環境設計(株) 調査研究室
〒542 大阪市中央区南船場1-4-25ヨロトビル TEL 06-261-2144
〒562 箕面市瀬川4-5-27

梅沢 彰 北海道札幌平岸高等学校
〒062 札幌市豊平区平岸5条18 TEL 011-812-2010 (24) FAX 011-812-2049
〒065 札幌市東区北23条東18丁目3-16

薄葉 満 〒970 いわき市平中平窪1-16-3

碓井 信久 〒673 明石市鳥羽34-4

右手 和夫 東京都立瑞穂農芸高等学校
〒190-12 東京都西多摩郡瑞穂町石畑2027 TEL 0425-57-0142
〒190-12 武蔵村山市三ツ木561-4

W

和田 尚幸 茨城県立緑岡高等学校
〒310 水戸市笠原町1284 TEL 0292-41-0311
〒311-01 茨城県那珂郡那珂町菅谷6127

和田 清 信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設
〒381-04 長野県下高井郡山ノ内町志賀高原 TEL 0269-34-2607
〒381 長野市徳間916-6

若菜 勇 阿寒町教育委員会
〒085-02 北海道阿寒郡阿寒町中央町 TEL 0154-66-2222
〒085-02 北海道阿寒郡阿寒町新町

若杉 孝生 〒910 福井市中央2-8-27

和氣 俊郎 香川県立大手前高等(中)学校
〒763 丸亀市大手町 TEL 0877-23-3161
〒763 丸亀市川西町南154-6

渡辺 幹男 愛知教育大学生物
〒448 刈谷市井ヶ谷町広沢1

渡辺 茂 〒949-54 新潟県三島郡越路町大字飯塚3783

渡辺 友浩 〒783 高知県南国市立田本村2234-1 岡田様方

渡辺 邦秋 神戸大学理学部生物
〒657 神戸市灘区鶴甲1-2-1 TEL 078-803-0549 FAX 078-803-0444
〒651-13 神戸市北区東有野台3-12-4

渡辺 隆一 信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設
〒381-04 長野県下高井郡山ノ内町志賀高原 TEL 0269-34-2607
〒381-04 長野県下高井郡山ノ内町沓野869-2

渡辺 定路	福井県立道守高等学校 〒910 福井市若杉町35-21 〒910 福井市松本町4-3-25	TEL 0776-36-1184
渡辺 定元	〒418-01 富士宮市原942	
渡辺 高志	北里大学薬用植物園 〒228 相模原市北里1-15-1	TEL 0427-78-9308
綿野 泰行	金沢大学理学部生物 〒920-11 金沢市角間町 〒920 金沢市涌波2-11-40 涌波宿舎4-12	TEL 0762-64-5705 FAX 0462-64-5976
	Y	
矢原 徹一	九州大学理学部生物 〒812 福岡市東区箱崎6-10-1	
矢島 孝昭	金沢大学教養部生物 〒920-11 金沢市角間町 〒920-11 金沢市鈴見台4-12-20	TEL 0762-64-5808
山田 義武	〒504 各務原市那加琴ヶ丘町3-29	
山田 耕作	〒516 伊勢市勢多町船江山941-47	
山田 和彦	島根県立松江北高等学校 〒690 松江市奥谷町164 〒692-04 島根県八東郡島根町加賀561-1	TEL 0852-21-4888
山越 真克	〒466 名古屋市昭和区曙町1-6	
山口 明夫	大和郡山市立少年自然の家 〒639-11 大和郡山市矢田町574 〒639-11 大和郡山市矢田山町23-9	TEL 07435-3-7290
山幡 英示	大阪府立高石高等学校 〒592 大阪府高石市千代田6-12-1 〒586 河内長野市末広町92-7	TEL 0722-65-1941
山森 茂	津幡町立津幡小学校 〒929-03 石川県河北郡津幡町字清水リ100 〒929-11 河北郡宇ノ気町多田	TEL 0762-89-2001
山本 明	〒242 大和市つきみ野4-6 つきみ野ビレジC-2-804	
山本 四郎	〒790 松山市余戸東2-8-17	
山本 久子	北陸大学薬学部 〒920-11 金沢市金川町ホ-3	TEL 0762-29-1165
山中 二男	〒780 高知市宝町11-6	
山中 三男	高知大学理学部生物学科 〒780 高知市曙町2-5-1 〒781-01 高知市仁井田836-2	TEL 0888-44-0111 FAX 0888-43-4220
山中 典和	鳥取大学乾燥地研究センター 〒680 鳥取市浜坂1390	
山岡 正尾	〒939-05 富山市水橋町中村416	
山城 学	〒860 熊本市黒髪町4-12-39	
山下 寿之	東京農工大学連合農学研究科植生管理学的研究室 〒183 府中市幸町3-5-8 〒183 府中市是政3-43-11	TEL 0423-67-5740 FAX 0423-34-6909
山崎 敬	〒165 東京都中野区上鷺宮4-1-6	
山崎 厚	〒183 府中市是政3-43-11	
矢野 悟道	神戸女学院大学 〒662 西宮市岡田山4-1 〒669-13 三田市あかしあ台5-3-1	TEL 0798-52-0955
安 昌美	〒310 水戸市見和3-580-23	
安田 信夫	〒924 松任市石同新町165	
安田 和人	〒741 岩国市川西1-2-9	

安原 清隆 〒719-03 岡山県浅口郡里庄町新庄2267
 安井 隆弥 〒100-21 東京都小笠原村父島清瀬都住3-10
 安井 一朗 富山県立富山高等学校
 〒939 富山市太郎丸1 TEL 0764-21-2925
 〒939 富山市安養寺266-19
 依田 晴美 〒986 石巻市門脇字4番地谷地16-287 セフィーラタウンC101
 依田 清胤 石巻専修大学理工学部基礎理学科
 〒986 石巻市南境新水戸1 TEL 0225-22-7716 (3188)
 〒986 石巻市門脇字4番地谷地16-287 セフィーラタウンC101
 吉年 祐一 〒586 河内長野市長野町8-3
 横溝 康志 栃木県民の森管理事務所
 〒329-25 矢板市長井2927 TEL 0287-43-0479 FAX 0287-44-1510
 〒321 宇都宮市峰1-3-27
 横田 昌嗣 琉球大学理学部生物
 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町字千原1 TEL 09889-5-2221 (2664)
 〒901-21 浦添市前田1386 前田住宅18-202
 横内 茂 名城大学農学部植物
 〒486 名古屋市天白区塩釜口1-501
 横山 俊一 福井大学教育学部理科教育
 〒910 福井市文京3丁目 TEL 0776-23-0500 (454)
 〒910 福井市北今泉町3-1-13
 横山 潤 東北大学理学部生物
 〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉
 米山 競一 〒921 石川郡野々市町住吉町9-27
 米澤 信道 〒606 京都市左京区上高野大明神町19-1
 吉田 紘一 〒921 金沢市泉本町1-83-3
 吉田 国二 〒464 名古屋市千草区池上町3-10-1 第二池上住宅301
 吉田 誠治 兵庫県立姫路南高等学校
 〒671-11 姫路市大津区天満191 TEL 0792-36-1835 FAX 0792-36-3186
 〒671-14 姫路市勝原区下太田449-5
 吉井 広始 高崎私立女子高等学校
 〒370 高崎市浜川町1650 TEL 0273-43-5121 FAX 0273-44-4335
 〒370 高崎市中居町3-4-14
 吉井 亮一 富山県民会館立山博物館準備室
 〒930 富山市新総曲輪4-18 TEL 0764-31-4111
 〒930 富山市鶴島1679
 吉川 直人 〒603 京都市北区小山元町44
 吉野 智雄 〒999-31 上市市須田板22
 吉野 由紀夫 東和科学(株)
 〒730 広島市中区舟入町6-5 TEL 082-291-0464
 湯浅 浩史 〒247 鎌倉市岩瀬1506
 結城 嘉美 山形県博物館
 〒990 山形市霞城町1-8 TEL 0236-45-1111
 〒990 山形市鈴川町1-5-15
 湯沢 陽一 福島県立平商業高等学校
 〒970 いわき市平中塩字一水口45
 〒970 いわき市郷ヶ丘2-49-22

外国会員

- 張 慶恩 国立屏東農業専門学校森林科
11 Men-Sheng East Road, Pingtung, Taiwan, Republic of China
- LAJIMINA JOSHI National Herb. & Botanical Lab. Department of Forestry & Plant Research,
H.M.G. Nepal, Katmandu, Nepal
- 金 文洪 济州大学校生物
韓国济州道济州市, Korea
- K. R. RAJBAHANDARI National Herb. & Botanical Lab. Department of Forestry &
Plant Research, H.M.G. Nepal, Katmandu, Nepal
- 宗 鐘碩 安東大学校自然科学部生物学科
760-749 韓国慶北安東市松川洞388, Korea
- F.H. UTECH Section of Botany, Carnegie Museum of Natural History
4400 Forbes Avenue, Pittsburgh, Penn. 15213, U.S.A

地域別氏名リスト

北海道

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 芳賀 卓 | 長谷川 栄 | 堀江 健二 | 五十嵐 博 | 小泉 豊 | 工藤 岳 |
| 松川 昌弘 | 中井 秀樹 | 並川 寛司 | 西川 洋子 | 西川 恒彦 | 大澤 達郎 |
| 佐々木太一 | 佐藤 謙 | 佐藤 創 | 塩田 惇 | 橘 ヒサ子 | 高橋 英樹 |
| 滝田 謙讓 | 鶴舎 博 | 植松 茂 | 植村 滋 | 梅沢 彰 | 若菜 勇 |

東北

- | | | | | | |
|-------|-------|----------|--------------|-------|-------|
| 赤坂 正一 | 原田 幸雄 | 原子 一男 | 青森
細井幸兵衛 | 井上 守 | 斎藤 信夫 |
| 畠山 茂雄 | 井上 幸三 | 杉田 久志 | 岩手
竹原 明秀 | | |
| 池田 弘子 | 森 俊 | 内藤 俊彦 | 宮城
成ヶ沢久仁子 | 大橋 広好 | 佐々木 豊 |
| 菅野 昭 | 菅原 亀悦 | 菅谷 貞男 | 鈴木 三男 | 寺田 和雄 | 上野 雄規 |
| 依田 晴美 | 依田 清胤 | 横山 潤 | | | |
| 越前谷 康 | 藤原 陸夫 | 後藤 鉄雄 | 秋田
堀井雄治郎 | 岩田 芳隆 | 加藤 君雄 |
| 鬼川 徹 | 菊地 卓弥 | 松田 義徳 | 沖田 貞敏 | 佐藤 政一 | 進藤熊太郎 |
| 白沢 芳一 | 高田 順 | | | | |
| 土門 尚三 | 布施 隆 | 石塚 和雄 | 山形
加藤 信英 | 佐川 昇 | 清水 大典 |
| 吉野 智雄 | 結城 嘉美 | | | | |
| 馬場 篤 | 五十嵐 彰 | 石川 順子 | 福島
国澤 高明 | 大石 俊雄 | 斉藤 慧 |
| 菅野 修三 | 薄葉 満 | 石川 湯沢 陽一 | | | |

関東

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------------|-------|-------|
| 安嶋 隆 | 秋山 忍 | 萩原 靖夫 | 茨城
橋本 保 | 堀 良通 | 今津 道夫 |
| 柏谷 博之 | 近藤 健児 | 近田 文弘 | 松本 定 | 松尾 和人 | 路川 宗夫 |
| 森田 弘彦 | 中村 直美 | 中村 徹 | 成島 明 | 能城 修一 | 緒方 健 |
| 柴田 敏郎 | 茂垣はるえ | 鈴木 昌友 | 棚谷 満広 | 寺林 進 | 和田 尚幸 |
| 安 昌美 | | | | | |
| 古瀬 義 | 長谷川順一 | 伊沢 一男 | 栃木
神山 隆之 | 小林 幹夫 | 久保田秀夫 |

村上 哲明 中村 幸人 野口 達也 横溝 康志
 今井善之輔 増田 和明 大森 威宏 里見 哲夫 島野 好次 須藤志成幸
 吉井 広始

埼玉
 浅見 和弘 磯田 洋二 池田 健蔵 大藤 信重 川崎 哲也 小舩 聡子
 大野 正男 小沢 正幸 佐々木 寧 杉山 明子
 千葉
 天野 誠 遠藤 泰彦 原 慶太郎 池田 正 猪俣 正雄 石井 保美
 岩瀬 徹 百原 新 本宮 宏一 元吉 健一 村田 威夫 中池 敏之
 中村 建爾 西田 誠 西田 治文 沼田 真 大野 景徳 大澤 毅守
 冲津 進 李 承娥 斎木 健一 島野 光司 杉村 康司 高橋 新
 高杉 欣一 土屋 守 辻 誠一郎 上野 健 Bout. Inocencio. Jr.

東京
 アハリアモスルム 秋山久美子 秋山 好則 阿久沢栄太郎 浅井 康宏 浅野 一男
 遠藤 康弘 福田 達男 船本 常男 船津 金松 萩原 信介 長谷部 光泰
 星野 義延 稲村 毅 石月 勇治 伊藤 洋 伊藤 信郎 伊藤 武
 岩槻 邦男 井関 智裕 上條 隆志 金井 弘夫 加崎 英男 小林 修一
 小林 義雄 小林 一男 小泉 武栄 小山 隆義 許田 倉園 榊田 信彌
 松井 哲哉 三島美佐子 宮本 太 水島うらら 村上 雄秀 邑田 仁
 中村 武久 中新田育子 中藤 成実 西 勝幸 大場 達之 大場 秀章
 大葉 英雄 大久保 敦 大滝 末男 大槻 真一 奥富 清 指田 豊
 関塚 正 染野 邦夫 鈴木 善雄 鈴木 和雄 田中 真澄 田中 靖子
 田中 教之 田沢 祐介 辻 誠治 津山 尚 田中 右手 和夫 山下 寿之
 山崎 敬 山崎 厚 安井 隆弥

神奈川
 阿部 聖哉 秋山 守 藤原 一絵 浜谷 稔夫 長谷川義人 支倉千賀子
 早川 亮太 磯谷 達宏 伊藤 敏雄 岩崎 五郎 金崎 公哉 勝山 輝男
 小林 純子 小木美恵子 小宮 芳男 小清水康夫 小杉 明 黒野 俊夫
 政木 淑人 官脇 昭 守矢 淳一 中村 弘和 中山 修一 小野 真
 小崎 昭則 佐藤 嘉彦 鈴木 邦雄 高橋 秀男 田中 徳久 遠山三樹夫
 坪井 聡 渡辺 高志 山本 明 湯浅 浩史

甲信越

山梨
 浅川 一造 中込 司郎 鈴木 憲仁 富樫 誠 植松 春雄
 長野
 阿部 直樹 赤井 賢成 千村 速男 池田登志男 今井 建樹 井上 健
 松田 行雄 中山 冽 大塚 孝一 柴田 治 富永 達 和田 清
 渡辺 隆一

新潟
 上石 貞夫 長谷川康雄 池上 義信 石沢 進 伊藤 至 岩野 俊逸
 刈屋 寿 川端 義一 北見 健彦 牧野 恭次 丸山 幸平 松井 浩
 森田 竜義 尾崎 富衛 笹川 通博 佐藤 隆雄 関 繁雄 関根 正平
 瀬沼 賢一 白崎 仁 平 慎三 高橋 務 登坂 裕一 渡辺 茂

北陸

富山
 長谷川幹夫 石須 秀知 岩坪 美兼 増田 準三 長井 真隆 長井 幸雄
 中田 政司 中村 吉和 中薮 俊二 鳴橋 直弘 太田 道人 佐藤 卓
 杉本 守 小路 登一 館 豊吉 高橋 一臣 谷口 丈明 内田 智美

山岡 正尾	安井 一朗	吉井 亮一	石川			長谷川郁江	畑中 康郎
安部 健史	油野 靖博	藤井 紀行	古池 博	池 博	長谷川郁江	畑中 康郎	
本多 郁夫	本田 雅人	藤井 淨	堀野 末男	古池 博	池 博	畑中 康郎	
金栄 典子	川原 健彰	本合 高治	村吉 久吉	堀野 末男	池 博	畑中 康郎	
小藤 累美子	鯨 幸夫	河谷 功治	影雅 幸也	木村 影上	池 博	畑中 康郎	
中垣 明子	ナンダウタミ	政谷 徳秀	達也 喜昭	御上 野木	池 博	畑中 康郎	
清水 建彦	白井 伸和	西井 武治	孝 昭	野上 野木	池 博	畑中 康郎	
植田 邦彦	梅林 正芳	杉江 良治		矢島 孝昭	池 博	畑中 康郎	
安田 信夫	米山 競一	綿野 泰行			池 博	畑中 康郎	
		吉田 絃一			池 博	畑中 康郎	

福永 吉孝	石本 昭司	香室 昭円	福井			小林 泰浩	中西由美子
大久保嘉雄	斉藤 寛昭	斉藤 芳夫	河野 和博	河野 和博	小林 泰浩	中西由美子	
田島 光夫	谷川 智彦	若杉 孝生	笹木 智恵子	笹木 智恵子	小林 泰浩	中西由美子	
			渡辺 定路	渡辺 定路	小林 泰浩	中西由美子	

東海

後藤 宮子	後藤 稔治	金古 弘之	岐阜			桑原 道衛	水野 瑞夫
長瀬 秀雄	成瀬 亮司	荻山 恒弘	小島 弘之	小島 弘之	桑原 道衛	水野 瑞夫	
田中 稔幸	田中 俊弘	津田 智	須賀 瑛武	須賀 瑛武	桑原 道衛	水野 瑞夫	

黒沢 美房	松本 雅道	諸井 芳太郎	静岡			内藤 宇佐彦	大村 敏朗
尾上 元一郎	佐藤 孝敏	佐藤 洋一郎	名倉 智道	名倉 智道	内藤 宇佐彦	大村 敏朗	
鈴木 一郎	渡辺 定元		志村 義雄	志村 義雄	内藤 宇佐彦	大村 敏朗	

相羽 福松	福原 稔一	浜島 繁隆	愛知			広木 詔三	井波 一雄
神谷 平	加藤 恵一	加藤 範夫	早川 利之	早川 利之	広木 詔三	井波 一雄	
宮本 敬之助	宮崎 弘規	守谷 茂樹	川合 開司	川合 開司	広木 詔三	井波 一雄	
奥田 浩之	奥村 直明	斎藤 毅	永井 博	永井 博	広木 詔三	井波 一雄	
鳥居 喜一	上田 豊二	植之原 耕治	佐藤 徳次	佐藤 徳次	広木 詔三	井波 一雄	
横内 茂	吉田 国		梅原 芳宏	梅原 芳宏	広木 詔三	井波 一雄	

近畿

中馬 千鶴	葛山 博次	近藤 義孝	三重			沢村 保昌	谷口 森俊
富岡 和俊	山田 耕作		南 正祝	南 正祝	沢村 保昌	谷口 森俊	

青木 繁	村瀬 忠義	滋賀			京都		
土肥 尚	後藤 義明	河野 昭一	村田 源	村田 源	内藤 登喜夫	大井 信夫	
米澤 信道	吉川 直人						

有馬 忠雄	浅見 佳世	江口 誠一	大阪			林 一彦	東本 晃一
北元 敏夫	此松 昌彦	工藤 洋	橋本 竹二郎	橋本 竹二郎	林 一彦	東本 晃一	
岡本 素治	鈴木 一嘉	田村 道夫	野田 昭三	野田 昭三	林 一彦	東本 晃一	
梅原 徹	山幡 英示	吉年 祐一	等々 力政	等々 力政	林 一彦	東本 晃一	

藤本 義昭	福岡 誠行	橋本 光政	兵庫			岩谷 成彦	角野 康郎
小林 禮樹	黒崎 史平	南木 睦彦	池田 博	池田 博	岩谷 成彦	角野 康郎	
斉木 保久	下山 隆秋	鈴木 武	室井 綽	室井 綽	岩谷 成彦	角野 康郎	
碓井 信久	渡辺 邦秋	矢野 悟道	高橋 晃	高橋 晃	岩谷 成彦	角野 康郎	
			吉田 誠治	吉田 誠治	岩谷 成彦	角野 康郎	

北川 尚史	粉川 昭平	瀬戸 剛	奈良 菅沼 孝之	山口 明夫
土永 浩史	木下 慶二	的場みち代	和歌山 高須 英樹	
中国				
清末 忠人	高尾 静代	田中 昭彦	鳥取 山中 典和	
丸山 巖	山田 和彦		島根	
榎本 敬	星野 卓二	井木 張二	岡山 小島 裕子	難波 早苗 西村 直樹
高田 真一	安原 清隆			
安藤 久次	久藤 広志	石橋 昇	広島 近藤 勝彦	松村 敏則 三浦 威
中越 信和	下田 路子	鈴木 兵二	太刀掛 優	田丸 豊生 吉野由紀夫
安溪 貴子	松崎 秀人	真崎 博	山口 真崎 久	三宅 貞敏 岡 国夫
安田 和人				
四国				
木村 晴夫	木下 覚	小川 誠	徳島 友成 孟宏	
橋越 清一	兵頭 正治	松井 宏光	愛媛 松尾 秀邦	山本 四郎
久米 修	三谷 進	大平 豊	香川 坂口 清一	谷本 智昭 和気 俊郎
堀内 和美	渡辺 友浩	山中 二男	高知 山中 三男	
九州				
尼川 大録	猪上 信義	小林 繁	福岡 牧 雅之	益村 聖 落石 秀行
長田 武正	筒井 貞雄	矢原 徹一		
岩村 政浩	上赤 博文	倉成 靖任	佐賀	
伊藤 秀三	川里 弘孝	中西こずえ	長崎 中西 弘樹	千々布義朗 馬田 勝義
今江 正知	乙益 正隆	佐藤 千芳	熊本 田代 周史	山城 学
佐藤三千代			大分	
南谷 忠志			宮崎	
初島 住彦	平田 浩	池田 豪憲	鹿児島 片平 高男	丸野 勝敏 鈴木 英治
田畑 満大	竹迫 賢一			

沖繩

富銘由紀夫 池原 直樹 唐沢 耕司 嘉弥真国男 澤岷 安喜 島袋 守成
島袋 敬一 新里 孝和 高良 拓夫 立石 庸一 横田 昌嗣

KOREA

金 文洪 宗 鐘碩

MALAWI

栗原 智昭

NEPAL

Lajimina Joshi K. R. Rajbahandari

REPUBLIC OF CHINA

張 慶恩

USA

工藤 洋 F. H. Utech

第2回アジア学術会議開催される

平成7年3月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、新規に学術研究総合調査費などを計上した平成7年度予算及び2月に開催された第2回アジア学術会議の概要についてお知らせします。

平成7年度日本学術会議予算

平成7年度政府予算(案)は、平成6年12月25日に閣議決定されましたが、日本学術会議関係の予算決定額は、11億2,339万4千円でした。その概要については次のとおりです。

【主な経費の概要】

(1) 学術研究総合調査

15百万円(平成7年度新規)

科学研究者の研究環境の改善と研究意欲の向上に関して、国内において意識調査及び実情調査を行う

とともに、外国においても実情調査を行い、結果を整理・分析し、日本学術会議において問題解決のための有効な方策について提言するもの。

(2) アジア学術会議の開催

22百万円(昨年度同額)

アジア学術会議は、アジア地域の各国を代表する科学者が一堂に会し、アジア地域において学術の果たす役割、学術交流の在り方等について討議することにより、相互理解を深め信頼関係を築くとともに、アジア地域ひいては世界の学術の発展に資するために実施するもの。

平成7年度日本学術会議関係予算決定額表

(単位:千円)

事 項	予算決定額	備 考
日本学術会議の運営に必要な経費	1,123,394	対前年度比 93.5%
1 審 議 関 係 費	292,820	重要課題の特別検討, 移転準備委員会, IGBPシンポジウム, 公開講演会, 学術研究総合調査(新規)等
2 国際学術交流関係費	208,750	
(1) 国際分担金	69,505	
(2) 国際会議国内開催	66,211	7年度開催(神経生理学, 健康教育, ロボット, 憲法, 真空物理学, 獣医学の6会議)
		8年度開催(理論・応用力学, 国際関係, 熱帯医学, 地域学会, 化学熱力学, 畜産学の6会議)
(3) 代表派遣	44,006	
(4) 二 国 間 交 流	6,823	
(5) アジア学術会議の開催	22,205	
3 会員推薦関係費	20,000	
4 その他の事務費等	601,824	一般事務処理費等

第2回アジア学術会議～科学者フォーラム～の概要について

日本学術会議は、アジア地域の各国科学者の代表を東京に招き、本年2月6日(月)から9日(木)までの4日間、三田共用会議所(東京都港区)において第2回アジア学術会議～科学者フォーラム～を開催しました。

会議には、中国、インド、インドネシア、日本、大

韓民国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの10か国の学術推進機関(アカデミー等)から推薦された人文・社会科学系及び自然科学系の科学者20名が出席し(日本からは伊藤正男日本学術会議会長及び利谷信義副会長が出席)、「アジアにおける学術交流のための方策」をメインテーマとして活発な討議を行いました。

初日の6日には、タイのチュラポン王女殿下、イン

ドのメノン博士による特別講演が行われたほか、高岡総理府次長(内閣総理大臣あいさつ代読)、藤田学士院院長をはじめ、国会議員、関係学協会の方々約200名をお迎えし、開会式及び歓迎レセプションが開催されました。

翌7日からは、それぞれの国籍や専門分野を超えて、アジア地域における学術の振興という共通の目的の下、熱心な討議が行われました。

その結果は、次項議長サマリーとして取りまとめられ、9日に無事閉会しました。

開催に当たり御支援、御協力いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

議長サマリー (要約・仮訳)

第2回アジア学術会議～科学者フォーラム～

1995年2月6日～9日、東京

1. 第1回アジア学術会議(1993年11月、ACSC)の提案に基づき、第2回アジア学術会議が日本学術会議の主催により、アジアの10カ国から20名の科学者を集めて開催された。参加国として新たにベトナムが加わり、暖かく迎えられた。開会式において、タイ王国のチュラボン王女殿下及びインドのメノン博士による「アジアにおける学術交流のための方策」をテーマとした講演が行われた。また、村山総理大臣及び藤田学士院院長から祝辞が送られた。
2. 前回の議長サマリーの諸原則を議論の出発点とし、最近の科学の動向、21世紀に向けた世界の状況を踏まえ、アジアの科学者の継続的かつ効率的な学術交流のためのテーマを巡って総合的な検討がなされた。
3. 討議の中で、参加者は、経験に基づくユニークで示唆に富むアイデアを紹介し、幅広い観点から意見を交換した。要点は次のとおりである。
 - (1) 科学分野における協力は、人々の「生活の質」の向上だけでなく、アジア地域における「持続可能な発展」も目的としなければならない。
 - (2) 環境破壊、人口爆発等の地球的課題への取組みに際し、人文・社会学者と自然科学者が密接に協力していくことが重要である。
 - (3) アジア地域においてとりわけ重要な「持続可能な発展」を確保し、国際的な共同研究を促進するために、人材育成が重要である。このための国際協力は、平等互恵の原則の下に推進されなければならない。
 - (4) 化学、農学、医学等の特定の分野において現在行われている、また、将来行われるであろういくつかの試み(「アジア化学推進機構」、「アジア応用システム分析研究所」、「アジア伝統医学推進機構」、「自然災害の緩和のための科学協力」)が地球的課題を解決するための方策として紹介された。また、「共生」という概念に関して議論があった。

4. 参加者はACSCにおける中長期的な研究目標として「持続可能な発展」を取り上げた。このテーマは、さらなる検討を通じて、より扱いやすいサブテーマへと細分化される必要がある。また、21世紀を見据えつつ、アジアの知の伝統を生かし、人文・社会科学及び自然科学の融合を図るという、新たな観点から研究を行っていくことも将来の目標である。

5. これらの問題を議論する場として、ACSCのあり方は大きな関心を集めた。

将来の展開としてACSCを恒久的な組織にすることの可能性についても議論があった。参加者は別紙に示された基本理念、目的及び活動に概ね同意し、各自、持ち帰って関係方面とさらに議論することとなった。

6. ACSCの目標を達成するため、参加者は努力を続けることに同意し、少なくとも新組織が確立するまでの間は日本学術会議によりACSCが毎年開催されること、また、将来的には日本以外でも開催されることが望まれた。なお、日本学術会議が新組織の事務局となり、また、各国は各々の窓口となる機関を決めるべきであるとされた。

新組織について

1. 基本理念
 - a. アジア共通の課題について審議、建議する組織
 - b. アジアの知の伝統を踏まえ、人文・社会・自然科学の融合を図る組織
 - c. アジア域内各国各地域に広く開かれ、他の国際学術団体とも連携を図る組織
2. 目的
「持続可能な発展」と「生活の質」の向上を目指して国際学術協力を推進するため、人文・社会・自然各分野の科学者が国籍や専門を超えて意見、情報の交換を行う場となること。
3. 活動
 - a. 科学者に関する提案とそのフォローアップ
 - b. 学術情報の収集・解析・普及
 - c. アジアの学術界の連携強化
 - d. 進行中の研究活動の評価・調整
 - e. 総会の開催、シンポジウム・ワークショップの支援

日学双書の刊行案内

日本学術会議主催公開講演会の記録をもとに編集された次の日学双書が刊行されました。

日学双書No.22 「尊厳死の在り方」

【定価】1,000円(消費税込み、送料240円)

※問い合わせ先

財団法人日本学術協力財団(〒106 港区西麻布3-24-2
交通安全教育センタービル内 ☎03-3403-9788)

戦略研究と高度研究体制の構築を

平成7年5月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、4月に開催された第121回日本学術会議総会の概要と総会第二日に行われた会長基調報告の内容に自由討議の議論を踏まえて修文した「我が国の学術体制を巡って」の一部を紹介します。

日本学術会議第121回総会報告

日本学術会議第121回総会は、平成7年4月19日から3日間にわたって開催されました。

総会初日の午前中は、①「阪神・淡路大震災調査特別委員会の設置」、②「国際農業工学会（Commission Internationale de Genie Rural : CIGR）への加入」の2件が提案され、いずれも賛成多数で可決されました。

阪神・淡路大震災調査特別委員会は、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災が、日本学術会議として緊急に対応すべき課題であるとの結論に達したので、3月27日の第843回運営審議会において新たな臨時（特別）委員会として設置され、総会で承認することとしたものです。審議事項は、阪神・淡路大震災が提起した問題点について、地震学、災害工学等自然科学分野のみならず、人文・社会科学分野を含め総合的に検討することとしています。

また、国際農業工学会への加入は、従来、日本学術会議が日本の科学者の代表機関として、国際学術連合ICSUを始めとする46の国際学術団体に分担金を支払って加入していますが、今回の新規加入の承認によ

り、その数が47となり、国際農業工学会に対応する国内委員会は、農業土木学研究連絡委員会となります。

総会2日目は、伊藤正男日本学術会議会長から、「日本学術会議の課題～高度研究体制を目指して～」と題した基調報告が行われ、会長が提起したさまざまな課題について、会員間の自由討議が繰り広げられました。

この報告は、昨年の第120回総会において第16期活動計画を定めてから既に半年を経過しており、この間の多彩な活動を通じて伊藤会長が考えてきた問題、特に、我が国の学術体制の問題を中心に適宜取捨選択したいくつもの課題について、伊藤会長自身の見解を述べ、人文・社会科学分野から自然科学分野わたる幅広い会員各位の意見を聞き、会員に共通の基本認識を深めることを目的として行われたものです。

なお、伊藤会長が、基調報告の内容に、自由討議の議論を踏まえて修文した「我が国の学術体制を巡って」は、序文の他7項目から構成されていますが、そのうち2項目について紹介します。

我が国の学術体制を巡って（抄）

—戦略研究と高度研究体制—

日本学術会議会長 伊藤 正男

〈「戦略研究」とその意義〉

大学では知的興味に基づく基礎研究を、企業では実用上の重要性を持つ応用研究を、という古典的な役割分担はもはや成り立たなくなっている。最近英米両国で基礎研究と応用研究の間に設けられた「戦略研究」のカテゴリーは、工学、農学、医歯薬学系の研究室では意識しないまま基礎研究として行われてきたものを多く含み、また企業において「目的基礎研究」と呼ばれるカテゴリーとほぼ対応している。研究者の知的興味と実用価値とは一般的にいて相反するが、そのいずれかに限定せず、両方の要素を両立させるカテゴリーである。研究費を受ける側にとっても、出す側にとっても受容し易い論理を提供し、科学政策上甚だ有効

な整理概念である。（中略）

我が国においては、応用研究に優れる一方、基礎研究は一般に貧弱であり、我が国の応用研究はむしろ国外の基礎研究を基盤とすることが少なくなかった。この点は英国とはちょうど事情が逆であるが、解離した基礎研究と応用研究の間を埋める必要があるのは同様である。この解離の社会的背景にはやはり我が国独自のものがある。我が国の大学においては、研究の自由の主張と産学協同の弊害に対する危惧が強かった一方、企業の方では、我が国の大学の基礎研究にあまり大きな利用価値を見い出さなかったといっているであろうか。率直に言って、今日でも多くの企業家は、大学等で行われる基礎研究に利用価値を認めるのでは

なくて、基礎研究に対する精神的な共感ないし慈善（チャリティ）の気持ちから、人材供給のパイプをつなぐ目的のため、あるいは基礎研究只乗りの非難をかわすために、これを支援する必要があると考えておられるように見受けられるといえれば誤解であろうか。企業等から大学への奨学寄付金が平成4年度501億円に及んだのはまことに喜ばしいことであるが、受託研究費が53億円に止まっているのは、依然として企業にそのような潜在意識のあることを示唆するように思えてならない。「戦略研究」の概念は、大学等でこれまで基礎研究として一括されてきたカテゴリーの中で、近い将来に应用される可能性を持つものに特別な照明を当て、その企業との近縁性を意識させる効果がある。また、会社等で使われる基礎研究費は、年間6千50億円にのぼるが、これは実際には大部分が「戦略研究」に向けられていると推測され、ここに大学等の研究者との協力の大きな素地が十分にあることが示唆される。（中略）

「脳の科学と心の問題」特別委員会が4月18日の連合部会で中間報告された問題を例にとると、脳がいかに働いて心を生み出すのかの謎を解くことは、基礎科学の最終問題といってよほど根源的な人間の知的興味の的である。140億といわれる膨大な数の神経細胞の働きがいかにして一つの意識というまとまった働きに統合されるのかは、それ自体極めて深遠な基礎科学の問題である。しかし、脳の研究はその物質的なメカニズムの解明により、脳神経系の病気を根絶し、脳の老化を防ぐといった医療上の大きな「戦略性」を孕んでいる。また、将来脳の情報処理の仕組みが解明されれば、ニューロコンピュータのような新たな原理を持つ情報機械を生み出す工学上の「戦略性」も極めて大きい。さらに、心のレベルについても、育児や教育の参考になり、産業心理学を助け、災害時の特異な心理状態への適切な対処を示唆するなど、人文・社会科学の広い分野での「戦略性」がある。米国の研究者がいち早く議会で働きかけ、1990年に始まる脳の10年Decade of the Brainが決議され、ブッシュ大統領が行政機関に対して脳の研究への支援を要請したのも、これらの戦略性に着目してのことに他ならない。

このように、「戦略性」に注目して強力な研究支援を行うことは、基礎科学としての脳研究にとっても、助けになりこそすれ妨げになるとは思われない。一般的にも「戦略研究」への支援からその基盤である純粋基礎研究への波及効果が期待できるが、ただ、必ずしもそれが望めない分野も少なくない点は注意を要する。研究者の中には、「戦略研究」を重視すると純粋基礎研究が圧迫され、置き去りにされる恐れがあるとして警戒する向きも少なくない。基礎科学の源は人間本来の知的興味にあり、応用とは無縁のところから始まることは確かな事実である。このような知的興味に基づく基礎研究を重視し、支援することが知的な文化的社会にとって有意義であることはもちろんである。あるいは、レーザーの発見のように純粋基礎研究の成果が長い時間の間に周辺技術の進歩により大きな戦略価値を持つようになった事例は数多くあり、基礎研究に潜在

する戦略性を予見することの困難さも指摘される。最近漸く基礎研究への理解を深めてきた我が国の社会に「戦略研究」の概念を持ち込んで、逆効果を招くことは私の本意ではない。私が強調したいのは、我が国においては本来基礎研究が弱体であったのに加えて、「戦略研究」もまた明確に意識されず、大学と企業の間が空白のままに置かれてきたことである。この空白を埋めるために、基本的なコンセプトにまで遡って大学と企業との関係を再構築することの必要性である。

〈我が国に「高度研究体制」を〉

歴史的な変化の時に当たり、学術の格段の推進が待望される今日、世界と我が国の学術体制にまつわる多くの問題を指摘した。我々は、多くの現実的な制約の下、先行きの不透明さに悩みながらも、次の世紀に向けての見通しを明らかにしようとして努力しているが、ここにおいて、特に研究者の立場からの発想を基に「高度研究体制」とも呼ぶべき我が国の将来の学術体制を構想することが重要と考える。

この体制を実施するためには、まずともかく大きな研究資金が必要である。ゆっくりながら堅実に改善を図っていく我が国得意のグレードアップ方式では、この競合的な世界の中で生き残ることは難かしい。すでにすっかり体制を整え直し、急速に進みだした世界の進度に遅れないようにするだけでも容易ではない。激しい先取権争いから脱落すれば、すぐ遠く置き去りにされてしまう。これまでのように、他国が多額の犠牲を払って開拓した路を安全に辿っていくことはもはやできない。誰にとっても始めてのフロンティアで、世界と互角に公正に競争していかなければならない。これまでのように、最小の投資で最大の効果を挙げることは望むべくもない。最大の効果は最大の投資をするものにしか保証されない。（中略）

このような「高度研究体制」は、前期において日本学術会議が提案した国際貢献のための新システムの構想を包含し、昨年9月我々が採択した第16期活動計画の精神を凝縮して現するものである。恐らくは我が国の研究者の多くが抱いている強い願望の表現であるが、ただの願望ではなく、このようなものがなければ、我々研究者の未来はありえないという厳しく強い要請を含んだものである。研究者本来の自由で創造的な学問的興味を追求しながら、国や社会の強力な要請に応え、深刻な地球規模問題の解決に尽力することを可能にするためには、なくてはならない体制である。

戦後50年間、営々として築いてきた我が国の学術の現状が、このような要請にどのようにに接近し、あるいはどのようににまだ遠いのか、今こそ冷徹に分析すべき時である。日本学術会議の審議の中から、この「高度研究体制」のあるべき姿をより具体的に現せば、それは今日我が国の学術体制の現状を映し出し、それがいかに高度とはいいがたい状態にあり、むしろ至る所に危機的な状況が伏在していることを示すだろう。そして今後、我々が努力を結集すべき明確な目標を与えてくれるであろう。

（全文は、日本学術会議月報平成7年5月号参照）

公開講演会「産業空洞化問題を考える」開催さる

平成7年9月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、7月に開催された日本学術会議主催公開講演会「産業空洞化問題を考える」の概要について紹介します。

日本学術会議は、学術の成果を市民に直接還元するための活動として、日本学術会議会員が講師となって、市民を対象に年2回、日本学術会議主催の公開講演会を開催しています。

日本学術会議のグローバリゼーションと社会構造の変化特別委員会は、いわゆるグローバリゼーションの進展によって我が国の経済・社会が受ける諸種の影響と、それに伴う様々な問題点を吟味し、今後、我が国がとるべきそれらへの対応策の在り方を検討することをその任務とし、特に、現在の我が国にとっての最も重大な危機的事態とも言うべき「産業空洞化」の問題の分析に最重点を置いて、審議を進めつつあります。

今回の公開講演会では、この特別委員会によるそのような分析・審議の成果を踏まえて、3人の講演者によって、まず、(1)我が国の経済を全体として見てマクロ的に考察するという経済学的な視点からは、現在の長期不況と異常な「円高」に伴って余儀なくされつつある我が国産業の「空洞化」という事態をどう捉え、また、それに対応すべき経済政策はどうあるべきか、そして、次に、(2)技術工学的な観点からすれば、このような現在の状況はどのように把握され、また、それについて、どのような問題点が指摘されるべきか、そして、さらに、(3)企業経営の面から見た場合、このようなグローバリゼーションのインパクトはどのような意味を持ち、我が国の企業はどのようにそれに対応しつつあるのか、という3つの視点からの分析が行われました。

この講演会は、平成7年7月14日(金)の午後1時20分から、日本学術会議講堂において約200名の聴講者を集め開催されましたので、その概要をお知らせいたします。

◇次 第

- 司 会 吉田 民人(第1部会員)
- 1 開会の辞 利谷 信義(日本学術会議副会長)
- 2 挨拶 吉田 民人(第1部会員)
- 問題提起
- 3 講演

- (1) 日本経済再生の方途
丹羽 春喜(第3部会員)
- (2) 技術移転と空洞化
冨浦 梓(第5部会員)
- (3) グローバリゼーションと日本企業の多国籍化
岡本 康雄(第3部副部長)
- 4 質疑応答
- 5 閉会の辞 西島 安則(日本学術会議副会長)

◇問題提起

吉田 民人(第1部会員、中央大学文学部教授)
空洞化という言葉は、英語でフォローイングアウトと言われ、これが最初に問題になったのは1960年代のアメリカであり、当時ECにアメリカの自動車あるいは電機産業が出て、アメリカの労働組合が、ジョブ、つまり仕事の輸出であるということとかなり反対したといったようなところから始めて、日本でも、1960年代の後半には東南アジアに直接投資が開始されていた。もちろんこの種の問題は、経済のグローバリゼーションという、まさにグローバリゼーションと社会構造の変化特別委員会が担当しているテーマの一つであるが、その空洞化が特に最近、円高の状況の中で国際競争力の著しい低下を招くということで、ますます加速されるというふうにみられているわけで、この種のテーマをグローバリゼーションと日本の社会構造の変化の中でも最も緊急のテーマの一つとして取り上げることになった。

空洞化といっても産業の空洞化、金融の空洞化、技術の空洞化、あるいは産業の空洞化も生産の空洞化、経営の空洞化あるいは雇用の空洞化といったさまざまな側面があるわけで、主としてその辺の問題を「産業の空洞化」という一言である意味でラフに総括させていただいた企画である。

中身は三つあり、(1)日本経済をマクロ的な角度から見ての空洞化の原因とその対策について、(2)技術の空洞化に関して、(3)ミクロ的な企業がグローバリゼーションの中で国際化していく。まさにそういう意味で言えばミクロ的であると同時にグローバルな、その意味

でマクロ的な観点から、それぞれ講演が行われる。

ここで出る問題は多岐にわたるが、基本的には空洞化の原因の究明と、それに対する対応策という二つの側面からの講演となるが、例えば大蔵省の立場あるいは日銀の立場、あるいは地方公共団体の立場、あるいは企業の立場、それぞれの立場によって微妙に特殊利益が反映せざるを得ないような問題構造になっているが、研究者というのはそういう特定の、つまり職業的な集団の利益から比較的解放されて、非常に客観的な判断をすることができる職業集団に属してることから、できるだけ客観的に、一般的に特殊な利害にとらわれない角度からの検討をさせていただくことになっているので、研究者としてはこういう見方をしているんだということをぜひお聞きいただきたい。

◇日本経済再生の方途

～円高と産業空洞化問題をどう考えるべきか～

丹羽 春喜

(第3部会員、グローバリゼーションと
社会構造の変化特別委員会委員長)

- ・ ケインズ 対 反ケインズ
 - ・ 経済学の50～100年の退歩
——ベトナム後遺症のニヒリズム——
 - ・ 政策の不合理性と長期経済停滞
 - ・ 三重の悪循環的ジレンマによる不況の永続化
 - ・ 「信賞必罰」システムのフロート制と「円高」の責め苦、そして産業空洞化
 - ・ 「低成長→低税収→財政赤字→緊縮財政→不況永続化」の悪循環
 - ・ 「リストラ不況」の危険性
 - ・ 20年以上もの超長期不況
 - ・ 結果としての「近隣窮乏化」政策（対外経済摩擦の根本的原因）
 - ・ 「正常な」国際分業と「異常な」空洞化とを混同するな
 - ・ ミスリーディングな「成熟経済」パラダイム
 - ・ 膨大なデフレ・ギャップ
——それを直視しようとしないう『経済白書』の危険性——
 - ・ 「規制緩和」、「リストラ」、「行革」、「市場開放」、等々の限界と欺瞞性
 - ・ 「合成の誤謬」の問題をまじめに直視しようとしないう風潮
 - ・ 朝野をあげての幼児化現象
 - ・ 必要な「最善のシステム」ビジョン（市場経済＋国民経済予算）への回帰
——むしろ、デフレ・ギャップこそ「真の財源」——
 - ・ 震災復興と被災者支援の政策はどうあるべきか
——国家の本質的な機能とは何か——
 - ・ 混迷からの脱却へ
- およそ、上記のような諸項目について、問題点を解

きあかし、日本経済再生の方途について、国民経済予算制度を現在の市場経済をベースにしている経済体制に組み込むべし等の提言を行いました。

◇技術移転と空洞化

富浦 梓(第5部会員、新日本製鐵(株)常任顧問)

製造業は全て技術の発明と、その移転によって、拡大、発展を成し遂げてきた。鉄鋼業における技術移転の歴史を振り返ってみると、一般的に技術の個人依存性が高いものほど移転が困難であり、技術の表象可能性の高いものほど移転が容易である事に気がつく。

技術の完全な表象には多くの困難が存在し、それ故に未だ経験に依存するところが多い。技術の表象可能性を高めるには、製造に伴って生ずる現象を分析して、基本過程を取り出し、それ等を統合して新たなシステムを発現するという行為の繰返しが必要とされる。

このような経験の科学化を継続的に行われないとすると、技術の空洞化が生じやすくなる。

このような点について着目し、技術移転と空洞化について、生産技術としての工学から社会技術としての工学へのシフト等の具体的提案としてまとめました。

◇グローバリゼーションと日本企業の多国籍化

岡本 康雄(第3部副部長、青山学院大学国際政治経済学部教授)

日本の製造企業は、1960年代後半東南アジアに生産拠点を軸とした海外直接投資を始めた。そして70年代に入ると、貿易摩擦回避がらみで米国向けの海外直接投資が、電機・電子、さらに乗用車といった分野において大規模に行われるにいたった。EUにも同じ様な分野での生産拠点の形成が進められた。この間、日本企業の競争優位資源の海外移転が果たしてどのように行われうるか、が重要な課題であった。

他方、世界規模では、各国、特に先進国間の所得水準の平準化と市場の同質化技術水準の均等化と革新の同期化が進み、情報通信技術の急速な進歩とそれによる伝達コストの低下、各国制度の自由化がこれに加わって、80年代国境なき経済——グローバリゼーションが急速に進展し、グローバル規模での競争が重要な課題であった。

そして80年代後半からは、アジアNIE S、90年代にはアセアンが台頭し、東アジア全体がグローバルな注目を浴びるにいたっている。そして日本は、急速な円高によりアセアンへの生産移転を急テンポに進めざるをえなくなっている。それは、日本国内の空洞化を誘発している。

これら三つは、今現在、同時解決を求められている課題である。このトライアドについて考察しました。

※ なお、この講演会の模様については、前回の講演会と同様、日学双書No.24「産業空洞化問題を考える」として、(株)日本学術協力財団より刊行予定です。

高度研究体制の早期確立についての要望が採択さる

平成7年11月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、10月に開催された日本学術会議第122回総会の概要と、総会初日に採択された「高度研究体制の早期確立について（要望）」の内容を紹介します。

日本学術会議第122回総会は、平成7年10月25日（水）から3日間にわたって開催されました。

総会初日は、まず、報告が行われ、会長経過報告及び科学技術会議報告に続き各運審附置委員会、各部、複合領域研究連絡委員会運営協議会、各常置委員会及び各特別委員会の報告がそれぞれの委員長・部長等から行われました。

この中で、利谷広報委員会委員長から、①日本学術会議月報の充実に伴い、会員各位からの原稿執筆の協力要請、②平成8年度の公開講演会の企画の募集を2月連合部会時に行うので、会員各位への事前検討要請、③日学選書の出版件数の拡大のための企画募集、④前日に開催した広報委員と地区会議代表幹事との連絡会議の議事から、地区会議の抱える問題点の紹介、の4点について発言がありました。

また、第7常置委員会、学術と産業特別委員会及び阪神・淡路大震災調査特別委員会からは、それぞれ、総会報告に付して、①国際対応の目的や役割をまとめ、それに対する日本学術会議内外からの意見を集約することで、日本学術会議としての国際対応の立場の構築をめざしてまとめられた「日本学術会議と国際対応（仮題）」、②学術の新たに進むべき方向に指標を与え、より高度な産業への貢献の方向を定めるのに必要な価値判断の基準を与えることの第一歩を踏み出すための端緒となるべくまとめられた「歴史的転換期における学術と産業のかかわりについて」、③事態の緊急性にかんがみ、意見のまとまったものから順次これを報告したいとの趣旨から「強震観測網の充実と強震研究体制の整備について」と「災害医療体制の整備について」の2件についてをその第一段階として位置付けてまとめられた「阪神・淡路大震災調査特別委員会第一次報告」が会員に配布されました。

この後、会員推薦管理会報告及び各研究連絡委員会報告に続いて、アジア学術会議実行委員長報告があり、西島委員長から、明年3月に開催予定の第3回アジア学術会議を中心とした今後の進め方について発言があ

りました。

続いて、提案事項の説明・討論・採決に入り、「内科系科学」と「外科系科学」に分かれている第7部の専門を見直して統合すること及び第17期に向けて、研究連絡委員会を見直し、改廃、統合、名称変更を行うことを内容とした①「日本学術会議法施行令」の一部を改正する手続きを進めること、②「日本学術会議会則」の別表の一部改正、③「日本学術会議の推薦に係る研究連絡委員会の指定等に関する規則」の別表の一部改正、④複数の研究連絡委員会にまたがる専門委員会の設置を認めることを内容とした「日本学術会議の運営の細則に関する内規」の一部改正、⑤会員推薦管理会が学術研究団体の登録を審査するに際して、資料を得る必要があると認められる場合には、日本学術会議の意見を聴取できるようにするための「学術研究団体の登録に関する規則」の一部改正、⑥今後における日本学術会議の組織、機能、施設等のあり方について、中・長期的観点から検討することを任務とした「運営審議会附置将来計画委員会」の設置についてを、それぞれ賛成多数で可決しました。

さらに、⑦21世紀を目前に控え、我が国の学術研究の飛躍的發展を図る観点から、研究費、研究者及び研究機構について抜本的な改善充実を図り、我が国の学術研究体制を一挙に高度の水準に引き上げ、高度研究体制の早期確立の実現を目指した「高度研究体制の早期確立について（要望）」を賛成多数で採択しました。

引き続き、⑧「脳の科学とこころの問題」を脳科学の視点からまとめた脳の科学とこころの問題特別委員会の対外報告案について討議を行いました。会員から活発な意見が出されたため、審議を2日目に持ち越して検討した結果、運営審議会で一部修文を行うことを条件として、賛成多数で対外報告とすることを了承しました。

2日目の最後に、前日配布された第7常置委員会の「日本学術会議と国際対応（仮題）」に基づき会員の間で自由討議が行われ、活発な意見交換がありました。

伊藤会長が村山総理に要望書を手交

平成7年10月30日(月)の午後3時に伊藤会長及び利谷、西島両副会長が内閣総理大臣官邸に村山総理大臣を訪ね、総理府の担当大臣である野坂内閣官房長官の立会いの下、平成7年10月25日(水)の第122回日本学術会議総会で採択された「高度研究体制の早期確立について」の要望書を手渡し、その趣旨等について説明を交えながら、懇談を行いました。

村山総理は、「要望の趣旨については、大変よく理

解でき、貴重なご意見を賜ったものと思う。しかし、例えば、研究費の倍増についての要望などは、シーリングの枠もあり、容易ではない。補正予算で配慮したりして、政府もいろいろ努力はしている。今後とも期待に沿うよう努力する。」と語り、要望書について理解を示しました。

なお、要望書の内容は以下のとおりです。

高度研究体制の早期確立について(要望)

学術研究が我が国はもちろん、世界全体にとってもその将来を左右する重要な役割を担うという認識が政・官・産を通じて最近とみに高まってきたことは喜ばしいことである。しかしその一方、我が国の学術研究体制にはなお制度的、構造的な多くの問題が顕在化している。

日本学術会議では、平成元年4月20日付け「大学等における学術研究の推進について—研究設備等の高度化に関する緊急提言—」の勧告を提出し、政府関係機関においても、このような現状を踏まえ、学術研究体制の改善のための様々な施策が講じられている。しかしなお、21世紀を目前に控え、我が国の学術研究の飛躍的發展を図る観点から、研究費、研究者及び研究機構について抜本的な改善充実を図り、我が国の学術研究体制を一挙に高度の水準に引き上げ、高度研究体制を早期に確立することが不可欠である。科学者の代表機関として、日本学術会議は以下の点を早急に実現することを要望する。

1. 研究費について

我が国の研究費の政府による負担割合、政府負担研究費の対GDP比を欧米先進諸国並みに引き上げ、政府の研究開発投資額を早期に倍増させることが必要である。

その際、基礎研究、応用開発研究に加えて、将来における応用の潜在力に注目した「戦略研究」のそれぞれについて助成を強化するとともに、国費による投資的経費としての研究費の支出、民間の研究助成財団の活動の促進などにより、多元的な研究資金源を確保することが必要である。

2. 研究者について

優秀な研究者を確保する観点から、研究費、研究施設等について劣悪な状況にある研究環境を早急に改善することが必要である。

また、ポストドクトラルフェローシップの飛躍的拡充など研究者の雇用形態の多様化を図るとともに、若手研究者の支援施策の改善充実、公正で多角的な評価システムの確立、外国人研究者の任用も含めた研究者の国際的な交流の促進などにより、研究者がその研究能力を最大限に発揮する条件を整えることが必要である。

3. 研究機構について

大学、研究所(国立試験研究機関、民間研究機関、大学共同利用機関及び大学の附置研究所をいう。)、企業の3セクターの調和のとれた発展、規模的に不十分な研究所セクターの拡充を図るとともに、これらの間の人的交流や研究協力を促進することが必要である。

また、急速に進展する学問の最前線に立って常に高い研究活動を維持するため、研究組織に安定性と流動性の二重性を導入するとともに、我が国の学術研究体制の重大な問題となっている研究支援者の不足について、所要の対策を講じる必要がある。

4. 国際的連携について

世界に開かれた共同研究の拠点の整備、研究助成を目的とする基金の設定など、研究者の国際交流、共同研究等の促進のため、所要の措置を講じる必要がある。その際、アジアの一員として、アジア地域に対しては特段の配慮が必要である。

日学双書の刊行案内

日本学術会議主催公開講演会の記録をもとに編集された次の日学双書が刊行されました。

日学双書No.23「歴史的転換期における学術と産業の在り方をめぐって」

【定価】1,000円(消費税込み、送料別途)

※問い合わせ先

財団法人日本学術協力財団 ☎ 03-3403-9788